



内定者の声

環境省
令和8年度入省予定
一般職自然系



はじめに

この度は、令和8年度版環境省一般職自然系『内定者の声』をご覧いただき、ありがとうございます。

本冊子は、環境省自然系職員(通称:レンジャー)を志望する方々を主な対象に、令和8年度入省予定の一般職自然系内定者の体験談や想いをまとめたものです。志望動機、国家公務員試験の勉強方法、官庁訪問の様子など、実際の体験に基づくリアルな声を紹介しています。

レンジャーの仕事は、国立公園の管理、自然環境の保全・再生、希少種の保護、外来生物対策、施設整備、環境教育など、多岐にわたります。そのフィールドは北海道から沖縄、時には海外にまで広がっており、人と自然をつなぎ、日本の豊かな自然を次世代へと引き継ぐため、レンジャーたちは現場の最前線で日々活動しています。

本冊子をご覧になっている皆さまは、きっと「自然環境に関わる仕事」に関心をお持ちの方が多いと思います。この『内定者の声』が、皆さまの進路選択や就職活動のヒントとなり、そして環境省レンジャーという仕事を身近に感じていただけるきっかけとなれば幸いです。

令和8年度環境省入省予定
一般職自然系内定者一同

※こちらの情報は令和7年度のもので、令和8年度以降の国家公務員試験、官庁訪問のスケジュールは、人事院や環境省のホームページでご確認ください。

目次

はじめに・目次	p1
基礎情報	p2
内定者の概要	p5
内定者からの情報	p10
巻末資料	p81
終わりに	p83

基礎情報

国家公務員採用一般職試験及び内定までの流れ(令和7年度の場合)

日時	人事院	環境省	ひとつこと
(令和7年) 2月3日～	国家公務員試験の 受験案内がHPに掲載		試験日や申し込み方法など内容を確認 しましょう。
2月20日～ 3月24日	インターネットによる 受験申込受付期間		申し込みが必要です。期日までに余裕 をもって申し込みをしましょう。
6月1日	第1次試験(筆記)		多肢選択式+記述式です。 服装は私服でOKです。
6月上旬		HPに官庁訪問予約 受付案内が掲載	
6月25日	第1次試験 合格発表	官庁訪問 予約受付開始	【人】HPで確認できます。 合格通知書はパーソナルレコードからダ ウンロードしましょう。 【環】環境省HPを事前に確認しましよ う。訪問者カード(早めに準備するの がおすすめ)を作成し、メールで送ります。
7月2日		官庁訪問1日目	対面で面接があります。
7月3日		官庁訪問2日目	対面で面接があります。
7月4日		官庁訪問3日目	対面で面接があります。
7月9日～ 7月25日	第2次試験(人物)		人事院の面接試験です。 第1次試験合格通知書に書かれた指定 の日時・場所で行われます。
7月29日		官庁訪問4日目	対面で面接があります。
7月30日		官庁訪問5日目	対面で面接があります。
8月12日	最終合格発表	採用内々定解禁 →最終面接の案内	【人】HPで確認できます。 合格通知書はパーソナルレコードからダ ウンロードできます。 【環】採用の内々定と最終面接の案内が それぞれ電話とメールで伝えられます。
10月2日		最終面接→内定式	最後の面接があります。

*こちらの情報は令和7年度のもので、令和8年度以降の国家公務員試験、官庁訪問のスケジュールは、人事院や環境省のホームページでご確認ください。

*【人】:人事院、【環】:環境省の略です。

◇ 国家公務員採用一般職試験

・試験区分

環境省一般職自然系は、国家公務員採用一般職試験(大卒程度)の、「林学」、「農学」、「建築」、「土木」、「農業農村工学」のいずれかの試験区分の合格者から採用されます。試験内容、配点、出題分野等の詳細や最新情報については国家公務員試験採用情報 NAVI の受験案内をご参照ください。

(国家公務員採用情報 NAVI <https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.html>)

・過去問の取り寄せ

各試験区分の過去問は、人事院の HP からダウンロードした行政文書開示請求書に必要事項を記入の上、郵送または窓口にて申請することで入手できます。

(人事院 HP <https://www.jinji.go.jp/jyohokoukai/annai.html>)

※試験問題の保存期間は 5 年間のため、最大 5 年分の問題を入手できます。

※開示方法は「人事院地方事務局等での開示(閲覧、写しの交付)」or「送付(CD データ(PDF 形式)、写し)」から選択できます(CD データがおすすめ)。

※過去問の取り寄せには以下のように時間がかかるので注意して下さい。

申請書送付→(約 1 ヶ月後)開示決定通知、同封の申出書を送付

→(1~2 週間後)過去問到着

※なお、2023 年度以降に実施した国家公務員採用試験について、試験問題集(基礎能力試験及び専門試験)が HP に掲載されることになりました。人事院の以下の HP に掲載されています。

(https://www.jinji.go.jp/saiyo/siken/mondairei/mondairei_15.html)

・試験内容

第 1 次試験では、多肢選択式の基礎能力試験、多肢選択式と記述式の専門試験があり、第 2 次試験では、人物試験があります。最終合格すると採用候補者名簿に記載されます。

※2024 年度より、大卒程度試験の基礎能力試験の出題数が 40 題から 30 題に削減されました。また、高卒程度試験を含む全ての試験の基礎能力試験において、情報に関する問題が出題されています。詳細については以下のリンクをご確認ください。

(<https://www.jinji.go.jp/content/900035915.pdf>)

◇ 官庁訪問

・官庁訪問とは？

国家公務員として採用されるには2つのステップを突破する必要があります。1つは前述の人事院が実施する国家公務員試験ですが、試験の最終合格のみでは「採用候補者」であり、道半ばです。採用に向けて突破すべきもう1つのステップが、官庁訪問と呼ばれる各府省庁等が個別に実施する面接です。ここでは、環境省が行う官庁訪問について説明します。

・官庁訪問の予約

年度により実施時期や予約方法が異なる場合があるため、最新の情報を必ず確認してください。令和7年度の場合、6月上旬に環境省HP(採用・キャリア形成支援情報 自然系(総合職・一般職))上で予約方法が公開され、人事院の第1次試験の合格発表と同時に官庁訪問の予約が解禁されました。今年度はスケジュールが7月上旬と下旬の2つの期間で実施されており、それぞれで受付期間は異なりました。電子メールによる事前予約制で、環境省採用HPからダウンロードした様式に必要事項を入力、顔写真貼付の上、メールに添付して送信し、申し込みました。

・面接の形式

年度により形式が異なり、その詳細は受けてみないと分かりません。令和7年度の場合は、いずれの日程も環境省本省での対面面接で、1日に複数回の面接が行われました。本省入館の際は「写真付きの身分証明書(学生証等)」が必要です。

◇ 参考サイト

試験や官庁訪問に関する最新の情報は人事院や環境省のHPでご確認ください。

○人事院 HP 国家公務員試験採用情報 NAVI

<https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.html>

○環境省 HP 採用・キャリア形成支援情報 自然系(総合職・一般職)

https://www.env.go.jp/guide/saiyo/cat_3all/index.html

内定者の概要

	A	B	C
試験科目	林学	農学	林学
性別	男	男	女
年齢	24	22	25
最終学歴	大学卒業見込み	大学卒業見込み	大学院修了見込み
専攻科目	応用生物学・人間行動学	進化生態学	造園学
研究テーマ	授業動画に関する 認知負荷と学習効果	ミルワームフラスを用いた 農作物の栽培	バードウォッチャーの 意識調査
インターンシップ先	なし	環境省対馬自然保護官 事務所	環境省支笏洞爺国立公園 管理事務所
併願先	国家総合職・林野庁 民間企業(再エネ関連)	国家総合職	国家総合職
これまで最も力を 入れたこと	環境系 NPO への参加	大学の部活動 (トライアスロン)	アルバイトや研究を通じたコ ミュニケーション能力の向上
趣味	登山・映画・ゲーム	トライアスロン ランニング・森林浴	屋外アクティビティ 手芸・芸術鑑賞
好きな動植物	鳥類・亀・クマムシ	ゴイシジミ	フクロウ

	D	E	F
試験科目	林学	林学	林学
性別	男	男	女
年齢	25	22	26
最終学歴	大学卒業見込み	大学卒業見込み	大学卒業
専攻科目	獣医学(公衆衛生学)	森林生態学	野生生物保護学
研究テーマ	ニホンザル由来株 Bartonella の病原性検討	高山植物の 地球温暖化応答	なし
インターンシップ先	産業動物系企業(獣医) 県職員(獣医)	なし	なし
併願先	県職員(獣医師)	地方上級(林学)・林野庁	なし
これまで最も力を 入れたこと	研究室活動(ヒト血液を使っ た実験など)	部活動	学業と課外活動の両立 アクティブレンジャー
趣味	バスケットボール 音楽鑑賞・トレッキング 釣り・生物飼育・旅行	ロッククライミング・登山 キャンプ・旅行 最近では映画鑑賞!	音楽鑑賞・生物写真撮影 読書・一人旅
好きな動植物	オオワシ・オオタカ オイカワ・エゾリンドウ	猫科の全ての動物	ヨナグニサン・カンムリワシ

	G	H	I
試験科目	林学	林学	林学
性別	女	男	男
年齢	22	28	25
最終学歴	大学卒業見込み	大学卒業	大学卒業見込み
専攻科目	森林生態学	環境地理学	地域創成科学
研究テーマ	シカの食害による 尾瀬沼周辺の 植生および水質への影響	荒廃地の植生回復	国立公園の利用史 現生貝形虫の分析
インターンシップ先	環境省本省・県庁 総合建設コンサルタント	なし	環境省本省(自然環境局) 環境省地方環境事務所
併願先	地方上級(森林職) 環境コンサルタント	国家総合職 地方自治体(林業職)	国家総合職
これまで最も力を入れたこと	野外調査・山小屋バイト	前職(民間企業)での業務 海外で見聞を広める活動	国立公園や自然に対するの 理解度を深めること
趣味	登山・旅行・お酒	登山・自転車・旅行	スキューバダイビング 旅行・博物館巡り スポーツ観戦
好きな動植物	オコジョ	ライチョウ	ニホンミツバチ・カブトムシ

	J	K	L
試験科目	農学	農学	農学
性別	男	男	女
年齢	27	25	23
最終学歴	大学院修了	大学院修了	大学卒業見込み
専攻科目	水圏生態学	微生物生態学	植物生態学
研究テーマ	抗生物質が水圏の細菌と 物質循環に及ぼす影響	自家蛍光シグネチャーを 用いた休眠状態の 微生物の識別	大阪府の主要都市公園 における草本植物の 多様性解析
インターンシップ先	なし	金融企業・メーカー(化学系・ 電気機械系)	環境省(本省)・民間企業 (建設コンサルタント)
併願先	なし	地方上級(農業)	独立行政法人 地方上級(環境)
これまで最も力を入れたこと	前職での業務 学生時代の研究活動	大学時代のアカペラサークル・ とんかつ屋アルバイト	実際に足を運んで 自分の身体で経験すること
趣味	野鳥観察・バドミントン	読書・カフェ巡り・音楽・絵 カメラ・散歩	登山・クライミング・SUP
好きな動植物	鳥類全般	猫・鯨・水蓮・雷鳥	雑草

	M	N	O
試験科目	林学	農業農村工学	林学
性別	男	女	女
年齢	21	21	28
最終学歴	大学卒業見込み	大学卒業見込み	大学院修了
専攻科目	森林生態学	地域環境工学	古生物学
研究テーマ	植生保護柵内外の量的な種子散布効率の比較	有機質肥料を施用する土壌の微生物バイオマスおよび菌叢の評価	琉球列島に生息するハシブトガラスの四肢骨の形状比較
インターンシップ先	県庁	農林水産省事務所	環境コンサルタント
併願先	地方上級(林業) 国家一般職(林野庁)	地方上級(総合土木)	なし
これまで最も力を入れたこと	野生動物に関する調査などのフィールドワーク	大学受験	卒業研究
趣味	旅行・散歩	読書	読書・登山
好きな動植物	猫・アナグマ	セキレイ	猫

	P	Q	R
試験科目	林学	林学	林学
性別	女	女	女
年齢	21	22	21
最終学歴	大学卒業見込み	大学卒業見込み	大学卒業見込み
専攻科目	森林生態学	森林生態学	森林生態学
研究テーマ	河川敷と住宅地におけるタヌキの土地利用パターンについて	鏡ヶ成湿原におけるササ抜根等一連の手入後の初期遷移の検証	放棄里山林分における、ナラ枯れがギャップ更新に与える影響
インターンシップ先	害獣駆除会社 環境省対馬自然保護官事務所厳原事務室	環境省釧路自然環境事務所 IT 会社	市役所・県庁・林野庁 民間企業(コンサル・IT)
併願先	林野庁(一般職) 地方上級(林学)	地方上級(林学) IT 企業	地方上級(林業)・林野庁 文部科学省 環境コンサルタント
これまで最も力を入れたこと	興味がある場所(調査地や職場)に実際に足を運ぶこと	部活動	部活動(オリエンテーリング)
趣味	国内旅行・料理 フィールドワーク	ドラム演奏・散歩 漫画を読む	旅行(47 都道府県制覇) 料理
好きな動植物	ヤマネコ・ツキノワグマ	オオワシ・バイケイソウ	哺乳類全般 (推しはウォンバット)

	S	T	U
試験科目	林学	林学	農学
性別	男	男	男
年齢	22	27	25
最終学歴	大学卒業見込み	大学卒業	大学院修了見込み
専攻科目	群集生態学	動物生態学	畜産(動物行動管理学)
研究テーマ	水田生態系の生物多様性減少要因の解明	ミシシippアカミミガメの生殖器と食性の季節変化	黒毛和種子牛の自然哺乳と人工哺乳によるその後の影響
インターンシップ先	環境コンサルタント	なし	環境省信越自然環境事務所
併願先	民間企業	なし	国家総合職 地方上級(農業) 国立国会図書館・民間
これまで最も力を入れたこと	学内ビオトープの管理 卒業研究	教師として理科好きな子どもが増えるように教材研究に勤しんだ	大学院の研究活動
趣味	サッカー観戦 サイクリング	野鳥観察	山登り・ツーリング 旅行・ゲーム
好きな動植物	ニホンアマガエル	鳥類全般 (特にヨタカや猛禽類)	黒毛和種の出荷前 ネコ・彼岸花

	V	W	X
試験科目	林学	林学	建築
性別	男	男	男
年齢	26	25	24
最終学歴	大学院修了見込み	大学卒業	大学院修了見込み
専攻科目	野生動物学	昆虫学	建築学
研究テーマ	急傾斜山間部における獣道の分布特性と形成要因の解明	大学収蔵の日本産タマムシ科昆虫について	戸建て住宅外構デザインの変遷について
インターンシップ先	なし	なし	環境省サマートライアル
併願先	林野庁	なし	地方上級(建築職)
これまで最も力を入れたこと	研究室の室長として多様な意見を尊重し共感を得て協力を促す運営	昆虫の生息地探索	卒業制作で河川の展示空間の提案を行ったこと
趣味	アウトドア (登山・釣り・キャンプ)	野鳥観察・昆虫採集	採集・ゲーム
好きな動植物	オオカミ	ヤンバルテナゴコガネ	ヤマノカミ

	Y	Z
試験科目	林学	林学
性別	女	男
年齢	22	25
最終学歴	大学卒業見込み	大学卒業
専攻科目	環境行政	人間環境学
研究テーマ	里山保全活動の 継続要因の分析	泳ぎ釣り
インターンシップ先	環境省近畿地方環境事務所 神戸市 SDGs 貢献型	なし
併願先	国家総合職 地方上級(林学)・林野庁	なし
これまで最も力を 入れたこと	里山保全活動などの ボランティア活動	社会人期間の パルプ需給調達業務
趣味	国立公園巡り・自然散策 ボランティア・映画鑑賞 体を動かすこと	釣り
好きな動植物	シマエナガ	アカショウビン

内定者からの情報

内定者 A の場合

◇ プロフィール

最終学歴	大学卒業見込み
学年	学部 4 年
併願先	国家総合職・林野庁・民間企業(再エネ関連)
参加した説明会・回数	自然系 WEB 説明会 4 回・霞ヶ関 OPEN ゼミ 1 回
試験区分	林学
専攻科目	応用生物学・人間行動学

◇ 志望動機

就職にあたり、環境保全・生物多様性の維持に関わる仕事に就きたいと考え、環境省を志望しました。

近年では民間でも環境問題に積極的に取り組む企業が多くありますが、説明会等に参加する中で営利目的が前提となる上での活動の難しさを強く感じました。そのため、営利目的から距離を置いた上で環境問題に国の規模で対応でき、また上記のような企業を支援し活動を促進させる制度作りを行える環境省の職務に非常に強い魅力を感じ、志望したいと考えました。

◇ 内定者体験記

◎全般(勉強方法、勉強スタイル、勉強開始時期など)

前年の 9 月ごろから勉強を始め、過去問を中心に苦手な分野の洗い出しと対策を行いました。

◎一次試験対策

・基礎能力試験

試験時間との勝負になると聞いていたため、時間を計って過去問や問題集に取り組み、短時間で答えを出せるよう意識しました。時事問題に関しては非常に疎かったため、毎日ニュース番組を見るなど時事に触れる機会を増やすように心がけ、環境課題や国際問題など公務員試験に関わりそうなトピックをメモしていました。

・専門試験(多肢選択式)

人事院から取り寄せた過去問を 5 年分取り組みました。範囲が広く専門外の分野も少なくなかったため、時間は計らずにわからない問題をその都度参考資料やネットで調べ、覚えるべき知識や正誤判断のポイントなどをワードファイルにまとめていきました。

・専門試験(記述式)

分野としては多肢選択試験と重なるところが多かったため、過去問を中心に長文をまとめる練習をしました。

また、林業白書の冒頭で特集を組まれているテーマが出題されることがあったため、特に近年の林業白書を読み込み現状の課題や取られている対策などをまとめました。

◎面接対策

・官庁訪問

内定者の声などを参考に、人物試験対策と合わせて想定質問集を作成しました。また近年の時事から環境省の取り組むべき課題や関わりたいプロジェクトなどを整理し、逆質問で聞きたい内容などもまとめていきました。

就活を始めるまで面接に対して非常に苦手意識がありましたが、民間企業を併願し官庁訪問や人物試験までに多く面接の機会を得ることができたため、本番では過度に緊張しすぎず話すことができたように感じます。

・二次試験(人物試験)

基本的には官庁訪問対策で用意した想定質問集をそのまま活用しつつ、公益性を重視する心構えなど公務員全般に共通する要素を書き足していきました。

面接会場が住んでいる地域から離れた場所になったため前日から現地で宿を取り、当日は朝から余裕を持って面接に臨みました。

◎内定までの過ごし方、心がけたこと

時事問題対策としてニュースに多く触れるように心がけました。

勉強に関しては家で長時間集中するのが苦手な性分のため、大学の自習室やコーヒーの美味しいカフェなどを梯子し、環境を変えつつ長時間集中する方法を模索しました。

◇ アドバイス、メッセージ

公務員を目指すにおいて、最も壁になるのはやはり官庁訪問であると強く感じました。3 年 4 年は忙しく早くから官庁訪問の対策をするのは難しいと感じますが、公務員試験の勉強をする中でも学ぶ内容と志望省庁とのつながりを考え続け、官庁訪問の場で話せる引き出しを増

やすことができれば後々役に立つと思います。

官庁訪問では政策に関する話のほか、ガクチカや人間関係など民間の就活でもよく聞かれる質問も非常に多かったため、民間企業での面接経験がとても役に立ちました。当日は実際に霞ヶ関に赴き、職員が大勢いる中での面接になるためかなり緊張しますが、できる限り民間就活や面接練習で経験を積み、自信を持って臨むことで内定に近づくことができるのではと感じます。

内定者 B の場合

◇ プロフィール

最終学歴	大学卒業見込み
学年	学部4年
併願先	国家総合職
参加した説明会・回数	自然系 web 説明会・自然系 web 座談会・自然系 web クロストーク・霞ヶ関 OPEN ゼミ・官庁合同業務説明会各 1 回
試験区分	農学
専攻科目	進化生態学

◇ 志望動機

幼い時の体験や大学での学び、ボランティア、インターンなどを通して人と自然のつながりを守り、日本の美しい自然を未来に残していきたいと思い志望しました。

◇ 内定者体験記

◎全般(勉強方法、勉強スタイル、勉強開始時期など)

10月ごろに過去問を解いてみて自分の実力を見ておくことが大切です。その後、出題数が多い科目などから効率よく勉強を進めていきましょう。春休みまでに5割取れるように頑張りましょう。その後、本番前は安定して6割を超えられるようになっていると安心です。

◎一次試験対策

・基礎能力試験

数的処理から勉強を始めましょう。慣れると得点源になります。時事問題については、知らない単語が出てきても常識的にあり得ないようなものを除外していくと3択ぐらいまで絞れます。(あとは神頼みです)。国語や英語の長文は、時間をかけないようにしましょう。そして本番までに、どの順番で問題を解いていくのかも決めておくことがおすすめです。

・専門試験(多肢選択式)

出題数が多い科目から勉強を進めましょう。農学の場合は、基礎がしっかりとできてくると知らないことでも正解できるようになります。そのため、出題数が少なく、基礎的な知識がつけにくい家畜関係の問題は捨ててもいいと思います。(本番では適当にマークをしておきましょう)私は、知識0から専門試験の勉強をしましたが、農学は比較的勉強しやすいと思います。

・専門試験(記述式)

まずは、文章の書き方になれる必要があります。次に、記述で聞かれていることについての知識をつけておく必要があります。最後に記述で聞かれそうなことについて山を張って準備しておきましょう。(私の場合は山を張ったものが出てきました)。そして、自分が書いた文章を誰かに見てもらうということが、一番大切なことだと思います。身近な大人(文章を書きなれている人)に見てもらいましょう。

◎面接対策

・官庁訪問

面接の練習は複数回しておきましょう。面接は練習をすればするだけ、上手になります。また、訪問者カードに書ける文字数は限られているため端的にそして多くの情報を盛り込みましょう。面接では、それぞれの質問事項について掘り下げ質問があるのでその時に盛り込んでおいた情報について丁寧に説明しましょう。その際に、自分の経験と思いを交えて答えることができると良いです。

・二次試験(人物試験)

人事院の面接は、面接官が環境や自然に関してあまり深くは知らない方が担当される場合があります。そのため、専門的すぎる面接カードは作らないようにしましょう。また、自分自身のことについて聞かれるため、どのような経験・体験をしたのかを丁寧に答えましょう。そして、面接を受けるまでの流れなどをイメージトレーニングできているとより安心です。

◎内定までの過ごし方、心がけたこと

私は、保護官になれなかったら大学院に進学しようと考えていたため内定をもらうまでは大学院入試の勉強と卒論の調査でバタバタしていたので何かを心掛けたりはしていませんでした。ただ、内定をいただいたときは両親や友人、先生、インターンでお世話になった保護官など様々な人からお祝いの言葉をいただいて、いかに自分が恵まれた環境で勉強していたのか実感しました。

◇ アドバイス、メッセージ

私の内定者体験記を読んでいただき、ありがとうございました。このメッセージまで読んでくださっているあなたは、きっと「自然保護官になりたい」という強い思いを胸に秘めていることでしょう。あとは、その気持ちを“形”にするだけです。もし途中でくじけそうになった時は、胸に手を当てて、あなたの心に残る自然の風景を思い出してみてください。その自然を、未来の子どもたちにも見せてあげられるように――。ともに歩んでいきましょう。

内定者 C の場合

◇ プロフィール

最終学歴	大学院修了見込み
学年	修士 2 年
併願先	国家総合職
参加した説明会・回数	自然系 web 説明会・自然系 web 座談会・クロストークなど 計 10 回ほど
試験区分	林学
専攻科目	造園学

◇ 志望動機

野生動物の獣医を知ったことから野生動物の保護や自然環境の保全に興味を持ち、大学進学の際にレンジャー職の存在を知りました。野生動植物の保護や国立公園の管理を通して国民の皆さんに自然を利用してもらい、興味をもっていただくことで自然を大切にしてほしいという考えに魅かれました。現場の関係者や自然と自ら触れ合う機会があり、それを国として政策に生かせるという点が他の自然関係の仕事とは違う部分であり魅力であると思います。

また、一般職レンジャーは総合職レンジャーよりも地方勤務の割合が多く、より密接に現場と関わる職種です。総合職も受験しており結果は残念でしたが、(負け惜しみでは全くなく本当に)一般職で合格を頂けて本当にうれしく思います。

◇ 内定者体験記

◎全般(勉強方法、勉強スタイル、勉強開始時期など)

・学部時代(※周囲に技術系職員を目指す人が少ない方向け)

学部卒時点での一般職受験も検討しており当時は地方の大学で周囲に国家一般職技術系を受験したい人が全くいない環境でした。技術系と事務系・理工系の区別を知らず、それを説明してくれる人もいなくて危うく事務系に行く行政の勉強をする予備校に通うところでした。地方の予備校では技術系の授業をしてくれないところもありますので注意してください。結局わたしはその年受験せず都市部の大学院に進学しましたが、人事院試験合格後の猶予期間も設けられているので学部時代に受験して院進後官庁訪問を受けるという選択肢もあります。

・受験期(※これ以降のわたしの体験記は本当に時間が無くて焦っている方向け、もしくは反面教師としてお読みください。)

はじめは一般職だけの受験を検討していましたが可能性が上がるならと思い総合職試験も受験したため、総合職試験対策、一般職試験対策、研究を並行して行うことに苦戦しました。総合職は造園学を選択し、一般職の林学のために新しく勉強する分野も多く不安でした。

総合職試験勉強としてもかなり遅い方だと思いますが 1 月から基礎能力試験(こちらは学部時代に週 1 コマの対策授業を2年間受けていました)と専門科目の造園学の対策をはじめ、研究そっちのけで一日中試験対策をし、3 月中旬に総合職一次筆記試験を受けました。その後一般職の林学を勉強しようと思いつつも 4 月中旬の総合職二次記述試験や放っておきすぎた研究に追われ、一般職一次試験まで一か月半となったところで林学の勉強を始めました。

試験当日はあきらめ半分で、それでもわずかな可能性にかけて受験しました。一般職一次試験の合否発表は総合職官庁訪問終了後に行われます。総合職が残念な結果だったため一般職の合否発表まで生きた心地がしませんでした。何とか合格をいただき、2 次試験や官庁訪問を切り抜けて今に至ります。私がこの日強運の持ち主ただけの可能性が高いので、心安らかにあるためにもどうか皆さんには早めのご準備をお願いします。

◎一次試験対策

・基礎能力試験

学部時代に週 1 コマの授業を 2 年間受講しており大体の解き方は知っていたため(絶対これのおかげで合格しました)、総合職対策の時期から数的推理(スー過去)と時事問題(速攻の時事)の参考書 2 冊だけ買って得意な部分は絶対落とさないという意識で勉強しました。

英語は TOEIC の勉強をしたことがあったのと、現代文は得意だったので文章理解にはあまり時間をかけず、よくないと思いつつ時事問題も運要素があり勉強が難しかったので試験の際も一通り読んでさらっと回答して終わりました。良くないですが資料解釈はほぼ運で確率で当たるということにして、勉強も実際の試験も時間をあまりとらず、他の問題を解くのに当てました。試験当日も以上の科目を先に終えて残りの時間を残りの数的処理系に注ぎました。

これは余談ですが、ナゾ解きゲームのレイトン教授シリーズ(少なくとも~2013 年)は数的処理っぽいナゾが結構出ます。あまり対策にはなりません。基礎能力試験勉強が心なしが苦ではなくなった気がします。まだ学部 1 年生で…みたいな方は参考にしてください笑

・専門試験(多肢選択式)

以上の通り、わたしが専門試験についてアドバイスできることは何もございません。林業白書、知識ゼロからの林業入門を見ながら過去問を解く練習をしました。

・専門試験(記述式)

こちらも多肢選択式と同様です。どうかみなさんは早めに対策を始めてください。

◎面接対策

・官庁訪問

対策としては大学のキャリアセンターでの面接練習と、Word 上で予測質問を並べてじっくり考えながら回答をつくることと、それを友人に見てもらいながら質問してもらい、それは何故?というようにそこからどんどん話を膨らませてもらうことで当日は予測していなかった質問はほとんどありませんでした。

自分がなぜレンジャーとして働きたいのか、入ってから何をしたいのかについてはもちろん、インターンシップや社会科学系の現地調査で学んだ人との関わりを通してレンジャーに必要な技能は何か、それができ得る人間であるかどうかをアピールすることを意識しました。

官庁訪問直前の説明会で「気負いすぎずに来てね」と優しい言葉をいただき、当日リラックスして挑んだところ、あっという間に時間が過ぎ、(あれ、アピールタイムもう終わってる!?)と思うことがあったので、リラックスしすぎてタイミングを逃さぬよう、伝えたいことはできるだけ早いうちから盛り込んでお話しすることをお勧めします。

わたしは地方在住だったので長い間知人に会えずさみしい思いもしましたが、間の土日は東京にいる友人宅に泊り美術館に行ったりおいしいパンを食べたりしました。また、日比谷公園内の緑と水の市民カレッジ 3階にあるみどりの図書館は自然関係の本が多く置いてあります。こちらでゆっくりするのもおすすめです。

・二次試験(人物試験)

わたしは官庁訪問終了後に人物試験を受けました。こちらはレンジャーとしてではなく国家公務員一般職としてどう働きたいかについて聞かれます。とにかくハキハキ、自信を持って対応することを意識しました。

◎内定までの過ごし方、心がけたこと

他の方より短い勉強期間かもしれませんが、やはり半年以上と長い期間でしたのでメリハリを大事にしました。やるときはやり、休むときは休む。道具を使った勉強ができなくても、官庁訪問でされそうな質問について考えたりしていました。

◇ アドバイス、メッセージ

皆さんにお伝えしたいのは、総合職と一般職をどちらも受験するなら最低でも年が明ける前に対策を始めるべきということです。本腰を入れて勉強するのが難しいなら林業白書をとりあえずパラパラと見ておくだけでも本腰を入れたときに頭になじむ速度が違うと思います。そして、勉強時間が確保できなかったり、いくら対策をしても気が休まらないというあなたには、案外どうにかなるのでとりあえず体調を整えて試験だけは受けてほしいということをお伝えしておきます。健闘をお祈り申し上げます。ぜひ一緒に働きましょう!!

内定者 D の場合

◇ プロフィール

最終学歴	大学卒業見込み
学年	学部 6 年
併願先	県獣医師職員
参加した説明会・回数	自然系 web 説明会複数回
試験区分	林学
専攻科目	獣医学(公衆衛生学)

◇ 志望動機

幼少期から生き物採集や川遊びなどを通してかけがえのない楽しい思い出や学びを得てきました。その中で次世代にも同じ体験の機会を残していくことは大人のすべき義務なのではないかという使命感が芽生えました。その使命を果たすため、志望しました。

◇ 内定者体験記

◎全般(勉強方法、勉強スタイル、勉強開始時期など)

卒業論文に加え卒業試験もある大学でしたので、余裕を持って取り組むため受験する 1 年前から対策を始めました。無駄にならないという点から TOEIC760 点を最初の 3 ヶ月で取得し、そこから徐々に教養科目と林学にシフトしました。

◎一次試験対策

・基礎能力試験

結論から言うと新スーパー過去問ゼミの判断推理・数的推理のみを苦手分野を絞りながら繰り返し解きました。文章理解に関しては過去問を見たところ、国語は自力で、英語は TOEIC の勉強のおかげで解けた為対策しませんでした。一方数的推理・判断推理は初見では正答率が低かったので対策しました。また、過去問に関しては解説が無いため YouTube の解説動画を参考にしました。

・専門試験(多肢選択式)

林学は配点が高いので重点的に対策しました。試験までのトータルの勉強時間で言うと 林学:教養科目が 7:3 の配分くらいでした。勉強方法は林業白書と森林林業実務必携を参考書にし、過去問の選択肢を一つ一つどこが違うのかメモしていく形でした。これがとても時間が

かかりました。私は1ヶ月に1年分のペースでした。試験直前は小論文の対策も兼ねて、過去問で特に頻出の分野を参考書で読み込み、時には思い出し書きして頭に詰め込みました。

・専門試験(記述式)

多肢選択式試験に向けた勉強をしていれば、記述式試験も戦えると思います。記述式の問われ方を確認し、問われそうな部分を予想しながら勉強すると良いと思います。

◎面接対策

・官庁訪問

私は面接に関しては準備しないと話せないタイプだったので、ノートアプリにまとめ、スキマ時間にいつでも確認できるようにしました。志望理由は絶対聞かれるかつ合否を左右する重要ポイントだと感じたので、実体験に基づいた説得力のあるものを用意出来ると強いと思います。また、アウトプットが大事だと考え、直前1ヶ月は週一回ペースで大学の就職指導課で面接練習をしてもらいました。官庁訪問自体は、実際に環境省で働く職員さんに自分の自然や動物に対する好みや熱意を聞いていただけるとても楽しい時間でした。しっかり準備して本番は思い詰めずに楽しんで望むと良いと思います。

・二次試験(人物試験)

日程上、官庁訪問よりも後にありました。官庁訪問で十分な対策をしたため特に対策はしませんでした。

◎内定までの過ごし方、心がけたこと

受験期は同時並行で実験や卒業試験に向けた勉強も進めていました。忙しかったため合否を気にする余裕がなかったですが、今思うと気負わずにいれたので良かったなと思います。

☆ アドバイス、メッセージ

私は大学が忙しかったのもあり、内定をいただくまでは受験期を思い出すしんどさがありました笑ですが終わってみると自分の人生のこれまでとこれからを見つめ直すいい機会だったなと感じています。

皆さんの就活も自身の糧になるような良いものであることを願っています。

内定者 E の場合

◇ プロフィール

最終学歴	大学卒業見込み
学年	学部 4 年
併願先	林野庁・地方上級(林業)
参加した説明会・回数	自然系オンライン説明会2回ほど・官庁訪問前説明会 大学 OB の説明会
試験区分	林学
専攻科目	森林生態学

◇ 志望動機

田舎生まれ田舎育ちで小さいころから森や川で過ごす機会が多く、やがて生態学や植物、動物、地形などに興味を持つようになりました。そういった自分の好きなものを職業にしたいと考えて志望しました。

環境省の魅力の一つにフィールドの圧倒的な広さがあります。山や海、里地里山、島嶼などフィールドの広さはこの上ないと思います。僕は山をはじめ、海や川、里山などの自然環境が好きでそういった場所に身を置いて働きたい、自分が好きな自然環境をより良いものにして後世に残したいと考え環境省を目指すようになりました。

◇ 内定者体験記

◎全般(勉強方法、勉強スタイル、勉強開始時期など)

勉強は試験がある年の3月に始めました。個人的に長く継続するのがあまり得意ではなく、どちらかというと短期間で集中して一気に作業を進める方が得意なので3月頃に勉強を始めました。ただ、5月の教育実習が思った以上に忙しく、ほぼ一カ月勉強できなかったことを踏まえると年明けくらいに始めた方がよかったなと反省しています。

勉強の進め方としては、とにかく範囲が広いので過去問(10年分くらい)を分析して要点を絞って勉強しました。人事院のサイトに、専門、基礎能力試験共にどの範囲から何問出題するのか記載されているので確認すると効率的に勉強できると思います。

◎一次試験対策

・基礎能力試験

参考書は「新スーパー過去問ゼミ」の数的推理と判断推理を使いました。また、「国家一般・過

去問500」は過去問を解くことと資料解釈の対策で使いました。新スーパー過去問ゼミは、分野毎に各公務員試験での出題頻度が記載されていたので効率よく勉強するのに有効でした。

数的推理・判断推理・資料解釈は出題数が多く、誰もが重点を置いて勉強する分野だと思います。だけど得意な人、不得意な人がはっきりする分野だと思います。これらの分野は問題によって決まった解き方が必ずあります。謎解きや数学のセンスではなく解法の暗記で突破できるので不得意な人も諦めないで！

・専門試験(多肢選択式)

こちらも3月くらいに勉強を開始しました。使った参考書は「森林・林業白書」と「森林・林業実務必携」の二つです。専門試験も出題傾向が人事院から公表されています。こちらも基礎能力試験同様に過去5年分くらいを遡って過去問の分析をしました。そうすると分野ごとに出題傾向があって、山を上手く張って効率よく勉強を進めることができました。

問題の多くが「森林・林業白書」から出題されており白書の勉強はかなり重要だと思います。白書の内容には最近の林業の動向が重点的に書かれており、白書を読み込むことは林業の理解を深め、面接や専門記述にも活躍してくるのでここはかなり時間を割いていいと思います。「森林・林業実務必携」は、林業全般の知識を深めるのに有効です。高校・大学と比較的長く林業の勉強をしてきましたが、これ一冊あれば森林に関する知識を大学レベルまで上げられると思います。

勉強の手順は、まず過去問をまとめ、問題文や選択肢に出てきた単語をメモした後に白書や実務必携を読み込みます。参考書に単語が出てきたらマーカーを引いて、その周辺(±5ページくらい)の内容をノートにまとめます。こうすると効率よく勉強できると思います。

・専門試験(記述式)

記述式の出題傾向はタイムリーなものが多いです。知識としては白書を読み込んでいけば解けるものがほとんどだと思います。正直、あまり対策はしていませんでした。書く内容も大切ですが文章の書き方も大切です。ですので、見やすい文章の書き方を勉強するといいいと思います。

◎面接対策

・官庁訪問

環境省に官庁訪問に行くとなって、まずおこなったことは環境省をよく知ることです。大学での勉強や専門試験では森林に関する知識を深めることは出来ましたが、環境省が実際に行っている取り組みについてはあまり知識がありませんでした。そのために環境省が発行している「環境白書」の読み込みをしました。

メインの対策としては自己分析を中心におこないました。自身のこれまでの大学生活などを振り返って長所や短所など基本的なことを分析しました。また、環境に対する自身の考えも改めて面接に挑みました。

事前の面接練習はなしのぶっつけ本番でいきました。というのも練習をしすぎると自身の素の状態では挑めないと考えたからです。ただ、部活のミーティングでOBに自身の考えを資料を基に伝えたり、教育実習で分かりやすく授業をしたりする経験があって練習をせずとも話せるイメージがかなり湧いたので心配はありませんでした。

面接の本質は自身の言葉で自身の魅力を相手に伝えることだと思います。考えなどを伝えることに苦手意識があったり、面接で話せるイメージが湧かない人は、ゼミに積極的に参加したり、サークル・部活動に励むことで対策できると思います。

・二次試験(人物試験)

私は官庁訪問より先に人事院での面接がありました。かなり限られた時間での面接でしたので、端的に自身の考えを伝えることに努めました。また、専門分野に関する理解度を測る質問もあるので、人事院面接に関しても専門試験の勉強をしておくといいと思います。

◎内定までの過ごし方、心がけたこと

研究室活動や部活動で何度も山に行きました。また、環境白書を読み込んだり、各国立公園の取り組みなどについても勉強しました。

勉強続き、面接に対する不安などがあると思いますがリフレッシュすることも大切だと思います。僕は手軽にできるリフレッシュとして映画館によくいきますね！今年の映画は面白い！

☆ アドバイス、メッセージ

私の大学生活は部活動が中心にあって季節問わず年間80日くらい山に行きます。それに加え教職課程を取っていたため遅い時間まで大学にいたことがほとんどでした。研究室活動では日本で前例のない研究をしていてノウハウの構築をイチからする必要がありました。全体としてかなり慌ただしい大学生活だと思います。就活も、就活のために時間割くことはあまりできなくて全体的に準備不足でした。ただ、それでも面接がうまくいったのは自身の大学生活の充実さと面白さに絶対の自信があったからです。

あなたの大学生活にはあなただけの経験や学びがあります。だからあなたのこれまでやってきたことの魅力や楽しさに自信をもって、自分の言葉で面接に挑んでください！それが一番あなたの魅力を伝える近道です！ではどこかの国立公園か映画館で会いましょう！

内定者 F の場合

◇ プロフィール

最終学歴	大学卒業
学年	既卒
職歴	アクティブ・レンジャー
併願先	なし
参加した説明会・回数	自然系 web 説明会(初めての方向け・整備編・現地レンジャー編)数回・自然系 web 座談会 1 回・クロストーク数回・JOB トーク数回 (いずれも 2021 年～2022 年頃)
試験区分	林学
専攻科目	野生生物保護学

◇ 志望動機

自然と人との共生の実現に貢献したいと考えたからです。

幼少期から自然が好きで、大学では野生生物の保全・管理を学びつつ、野生動物病院でボランティアとして傷病鳥獣の保護に関わりました。24 時間体制で命と向き合う過酷さの中で、目の前の命を救うことの大切さを実感すると同時に、法制度等を整備し、保全を根本から支える行政の役割に興味を持ちました。

卒業後、アクティブ・レンジャーとして希少種保全や外来種対策に携わる中で、地域と対話を重ね、双方が納得できる課題解決策を見つけることの重要性や、ルールや制度は作るだけでなく、その後どうやって地域に根差したものにしていかが大切だと学びました。

現場の最前線に立ち、自然と人をつなぎ、未来へと糸を紡いでいく。そんなレンジャーの仕事に魅力を感じ、環境省を志望しました。

◇ 内定者体験記

◎全般(勉強方法、勉強スタイル、勉強開始時期など)

試験前年の秋頃から少しずつ手をつけましたが、独学だったこともあり(……というのは言い訳ですが)全然スイッチが入らず、ようやく本腰入れて勉強し始めたのは 3 月末くらいからでした。

これまでの試験の合格点・平均点を参考に、自分は何点取れば良さそうかの目安を基礎・専門で出し、その点数に届くように分野を絞って対策しました。

◎一次試験対策

・基礎能力試験

試験前年の秋頃に、ノー勉の状態ですら昨年度の基礎能力試験を解いてみました。国英は解けましたが他が壊滅的だったので、対策は判断推理、数的推理、資料解釈に絞りました。

はじめは友人から譲ってもらった公務員講座テキストで判断推理、数的推理を勉強し、一通り解いたら、その後は過去問をひたすら繰り返し解きました。特に、傾向を掴むために過去 10 年分の出題内容を整理し、頻出分野に力を入れて対策しました(判断推理なら対応関係や数量相互の関係、数的なら平面図形や確率など)。過去の内定者の声にもあるように、数学系は1問でも良いので出来るだけ毎日解くことが重要だと思いました。また、過去問の解説は短く分かりづらかったので、分からない問題はAIに読ませて解説してもらい理解を深めました。独学の方にはおすすめです。

時事は、速攻の時事や YouTube の動画を息抜きに見る程度しか対策をしていなかったのので、本番はほぼ当てずっぽうでした。日頃からニュースや新聞を見ておくのが1番だとは思いますが、出題内容がマニアックすぎて正直対策のしようがないと感じたので、当たったらラッキー程度に思っておく(=得点源にはカウントしない)のが良いと思います。

なお、私は本番で完全にパニックでしまい、判断推理や数的の問題を少し解いては答えを出せず、焦って次の問題にうつる、という一番やってはいけないことをしました。国英で点を確保出来ていなかったらきっと落ちていました。このことから、

- ・確実に点が取れる教科を作る
- ・全ての問題に答えようとはせず、解けそうな問題に絞って焦らず確実に点を取る
- ・実際の試験時間で過去問を解いて時間感覚を身につける
- ・当日「やらかした！」と思っても、諦めず気持ちを切り替える

ことを強くお勧めします。

・専門試験(多肢選択式)

一部大学の専攻分野とかぶる部分はあったものの、ほぼ独学で勉強しました。過去問は全く解けなかったのので、白書や実務必携を参考に、1問ずつひたすら解説ノートを作りました。全てを勉強する時間はなかったので、過去の出題傾向を整理し、勉強する分野としない分野を決めて絞って対策しました。また、白書・必携に掲載されていない分野やソースが探しきれない問題も深追いせず潔く諦めました。特に難しいと感じた問題は、AI に解説をしてもらい、基礎情報を入れてから白書や必携を読むと、より理解が深まり良かったです。なお、本番はかなり時間が余りました。

ノート作りは、特にはじめの1~2 年分は基礎知識がなく相当な時間と労力がかかりましたが、段々分かるようになるので、独学の方も諦めずにコツコツ頑張ってください！

・専門試験(記述式)

あまり対策に時間を割けませんでした。記述対策には白書をしっかり読むこと、そしてインプットした情報を言語化・文章化する練習が重要だと思いました。私は本番前々日に過去問を10年分見て、それぞれザッと書く内容を整理していきました。すると、毎年問題は違えど、答えさせたい内容はほとんど同じだと気がつきました。いくつか重要なトピックが見えてきたので、AIに助けてもらいながら、本番、自分の文章で説明できるように頭の整理をしました。

◎面接対策

・官庁訪問

私は面接が大の苦手(全身汗ダラダラ、心臓バクバク、声が震える、頭真っ白はザラ)なので、出来る限りの対策をしました。具体的には、訪問者カードの作り込み、想定問答集の作成、模擬面接です。

訪問者カードは、周りの人(4人くらい)に見てもらい、添削を重ねました。こればかりは、AIに頼らず生身の人間の方が絶対に良いです。カード作りの際は特に話したい・アピールしたいトピックを全体に散りばめました。

作成したカードを元に、想定問答集を作りました。考えつく限りの質問をあげていくうちに、最終的に70問分になりました。頭の整理にもなりますし、本番パニック率が下がるので非常にお勧めです。実際、当日聞かれたうちのほとんどは想定していた質問でした。

また、想定問答集の作成と並行して、周りの人(計7人)に模擬面接をお願いしました。模擬面接は照れ臭いですが、一人で練習するより何倍も有意義なので、面接が苦手な人は絶対にした方が良いです。

本番は、①結論ファースト、②一方的に長々と話すのではなく、簡潔に答える、③面接ではない。会話を楽しむ、ということを中心に心がけました。

・二次試験(人物試験)

官庁訪問の対策が二次対策になりました。官庁訪問と比べ、人事院面接は浅く広く、というイメージだったので、想定問答集は面接カードに沿って作り直しました。面接官にもよりますが、人事院面接も和やかな雰囲気でした。

◎内定までの過ごし方、心がけたこと

働きながらの勉強で、あまりまとまった時間が確保出来なかったため、隙間時間を活用することや、効率的な勉強を心がけました。

◇ アドバイス、メッセージ

可能な限り、国立公園に行ってみたり、インターンに参加したりして、現場で働いている人に話を聞く機会があると良いと思います。環境省に興味を持ちはじめた当時、私は海外の大学に通っており、身近に環境省で働いている人も居なければ、現地を訪れることも出来なかったので、「アクティブになってレンジャーの仕事を身近で見よう！」と思いアクティブになりました。(結果、楽しくて、3年目になってようやく受験しましたが……) Web 説明会で聞いて想像していた業務内容と実際の業務内容はやはり違う部分も多かったのもので、自分が本当にやりたい仕事かを見極めるためにも、自分の目で見ることをおすすめします。

また、独学の方は、AI を上手く活用すると良いと思います。もちろん、AI は常に正確とは限らないので確認作業は必須ですが、私はこれで時間を大幅に節約できたと思います。励ましてくれるので、モチベーションアップにもなりました。

一次試験から官庁訪問、二次面接まで長丁場なので、学業や仕事、私生活との両立が大変だと思いますが、適度に息抜きしつつ、自分のペースで頑張ってください！

内定者 G の場合

◇ プロフィール

最終学歴	大学卒業見込み
学年	大学 4 年
併願先	地方上級(森林職)・環境コンサルタント
参加した説明会・回数	自然系 Web 説明会・座談会 計 5 回
試験区分	林学
専攻科目	森林生態学

◇ 志望動機

幼いころから自然が好きで、将来は環境保全に関わる仕事がしたいと考えてきました。趣味で登山を続ける中で、自然保護官という仕事の存在を知り、豊かな自然を守るために現場で奮闘する姿に強く憧れるようになりました。自然と人との関わりを支える政策づくりに携わりたいという思いから、環境省職員を志望しました。

◇ 内定者体験記

◎全般(勉強方法、勉強スタイル、勉強開始時期など)

本格的に試験勉強を始めたのは大学 3 年の 12 月頃です。スーパー過去問ゼミシリーズで出題範囲を把握し、教養科目の基礎固めから取り組みました。2 月頃から専門試験の勉強を本格化させ、春以降は模試や過去問を繰り返して出題傾向を掴むよう意識しました。

専門試験では幅広い知識が求められるため、ニュースや白書を読む習慣をつけ、時事的な話題にも対応できるようにしました。

◎一次試験対策

・基礎能力試験

主に数的推理・判断推理・文章理解・資料解釈といった出題数の多い科目を中心に学習を進めました。教材には「スーパー過去問ゼミ」を使用し、実際には 2 周しかできませんでしたが、特に文章理解は毎日 1~2 問ずつ解く習慣をつけたことで、試験本番では安定して得点できるようになりました。

・専門試験(多肢選択式)

過去問の解答を作成する形式で学習を進めました。暗記事項は表にまとめたり、スマホの暗

記アプリを使って移動時間に復習したりしました。基本的には白書と実務必携で調べましたが、それでもわからない場合はインターネットで調べました。

・専門試験(記述式)

頻出テーマを整理し、自分の意見を交えて論述できるよう準備しました。答案を作成する際は、「現状と課題→原因→具体的な対策→自分の考え」という構成を意識し、読み手に伝わりやすい文章を心がけました。また、時間内にまとめる練習を繰り返すことで、本番でも落ち着いて書き上げることができました。

◎面接対策

・官庁訪問

インターンや説明会に参加して業務理解を深めておくと、志望動機や話す内容に説得力が出ます。また、研究や野外調査などを通してレンジャーとして活かせそうな経験を積んでおくと、面接での話題に困らないと思います。当日は、自分の言葉で自然体に話すことを心がけました。

・二次試験(人物試験)

人物試験では、自分の強みや学生時代に力を入れたことを、具体的なエピソードで説明できるようにしました。緊張しやすいタイプだったので、大学のキャリアセンターで何度も面接練習を行いました。本番でも緊張はしましたが、原稿を読んでいる感じにならないように楽しそうに笑顔で話すことを意識しました。

◎内定までの過ごし方、心がけたこと

内定が決まるまでの期間は、不安や焦りを感じることも多かったです。常に自分にできることを続けよう意識して過ごしていました。思い通りにいかないこともありましたが、最後までやり抜くという姿勢を崩さずに努力を続けたことが、今につながっていると感じています。

◇ アドバイス、メッセージ

試験勉強中は心細く感じることもありましたが、過去の内定者の声を読んで励まされたり、公務員試験を受ける友人と一緒に勉強したりしてモチベーションを保ちました。

また、自宅では集中できなかったため、試験の3か月前くらいからは空いている時間のほとんどを図書館で過ごしていました。環境を変えることで勉強に集中でき、気持ちの切り替えもできたと思います。

公務員試験の勉強は長く孤独な戦いですが、自分のペースで継続することが何より大切です。どんな小さな努力でも必ず力になります！最後まであきらめずに頑張ってください。

内定者 H の場合

◇ プロフィール

最終学歴	大学卒業
学年	既卒
職歴	民間企業(他業界)で3年程度勤務
併願先	国家総合職・地方上級(林業職)
参加した説明会・回数	WEB説明会10回以上 公務研究セミナーin霞が関 官庁合同業務説明会
試験区分	林学
専攻科目	環境地理学

◇ 志望動機

大学卒業後は民間企業(他業界)で働いていましたが、趣味の登山や旅行をするなかで出会った風景や人々からの影響から、自然環境を守り、後世に残していく仕事がしたいという思いがありました。また前職の業務経験から、より公益性の高い仕事が自分に合っているのではないかと考えるようになり、「自然」+「公益性」ということで環境省自然系職員を志望するようになりました。

◇ 内定者体験記

◎全般(勉強方法、勉強スタイル、勉強開始時期など)

予備校には通わずに独学で勉強しました。民間企業を退職後、12月頃から勉強を始めましたが、集中して取り組んでいたのは試験前の2か月程度だと思います。まずは過去問1年分を解いて試験の全体像を把握した後、問題集や過去問を用いて勉強しました。並行して業務説明会に参加したり、面接対策を進めたりしていました。

◎一次試験対策

・基礎能力試験

基礎能力試験は制限時間に対して問題数が多く、時間との勝負になると思いますが、満点を取る必要はないため、自分の伸びそうな分野だけコスパよく勉強すると思います。私は数的推理や判断推理の演習を中心に行いました。問題集を購入し、2~3周して問題を見たらすぐに解法が思い浮かぶようにしました。演習に飽きたら、時事の参考書を読んでいました。専門試験のほうが配点が高いため、基礎能力試験にはそこまで時間をかけなくてよかった

というのが受験後の感想です。

・専門試験(多肢選択式)

5年分の過去問を解いて、正答率が低く苦手な分野を重点的に学習しました。正誤問題についてはなぜ正解なのか、なぜ誤りなのかを説明できるようにしました。また周辺知識を調べて理解を深めました。森林・林業白書の読み込みにも時間を使いました。私の大学時代の専攻は林学ではありませんでしたが、試験は問題なく通過することができました。専門試験(多肢選択式)は基礎能力試験と比べて試験時間には余裕があるので、じっくり問題を読んで解答しました。解答終了後は途中退出をする方も多いですが、私は見直しに時間を使いました。

・専門試験(記述式)

多肢選択式と同様に5年分の過去問を解きました。学習方法は多肢選択式と同様です。普段文字を書かない人は、書く練習をしておくといいと思います。結構手が疲れます。

◎面接対策

・官庁訪問

今までやってきたことを振り返り、これからどうなりたいか、何をしていきたいかを考えることが大切だと思います。筆記試験対策も大切ですが、これが就職活動の本質だと考えています。面接に向けては自分の考えを自分の言葉で説明できるようにしておきましょう。頭の中では考えていても、いざ口に出そうとすると言葉に詰まることもあると思います。話す練習をしておくといいと思います。私は官庁訪問前にハローワークで面接練習をしていただきました。

・二次試験(人物試験)

特に対策は行わず、自然体で面接に臨みました。

◎内定までの過ごし方、心がけたこと

民間企業からの転職でしたが、長らく机に向かっていなかったため、まずは勉強習慣を身に付けることから始めました。家で一人だとサボってしまうため、朝から図書館に行くようにしていました。友人と将来について語り合ったり、体を動かしたりすることで、リフレッシュしつつ、自分の考えを整理することができました。業務説明会に参加し、疑問や不安を解消しながら業務への理解を深めました。

◇ アドバイス、メッセージ

内定者には既卒者や社会人経験者も多くいますので新卒以外の方も安心してください。
学生時代に学習したことをよく思い出しておいてください(特に卒論等)。面接で結構聞かれます。

官庁訪問時、階段で面接会場(26階で行いました)に向かうのはやめましょう。緊張による震えは止まりましたが、会場到着時に汗が止まらなくなりました。

内定者 I の場合

◇ プロフィール

最終学歴	大学卒業見込み
学年	学部 4 年
併願先	国家総合職
参加した説明会・回数	Web 説明会・座談会など 10 回程度、オンライン職員訪問 1 回
試験区分	林学
専攻科目	地域創成科学

◇ 志望動機

私はもともと学芸員を目指していましたが、より多くの人と関わり、様々な経験をしたいと考え環境省レンジャーを目指すようになりました。説明会等を通じて保護と利用のバランスの重要性を学び、国立公園を活かした地域振興に貢献したいと考え志望しました。

◇ 内定者体験記

◎全般(勉強方法、勉強スタイル、勉強開始時期など)

私は 1 度大学を卒業していたので 2 年前から公務員試験の勉強を始め、昨年も受験をしていました。勉強方法が自分の中で確立できていませんでしたが、とにかく進めてみました。総合職も受けることで試験の練習ができますし、目標が前倒しになり勉強のペースが上がるので受験をお勧めします。

◎一次試験対策

・基礎能力試験

得意な分野は過去問を解いて時間配分を考えつつ、解き方を身に付けていました。一方で苦手分野であった計算問題は問題集を購入して集中的に取り組みました。とにかく基準点を下回らないように勉強しました。

・専門試験(多肢選択式)

林学で受験しましたが、林学を学んだことがなかったため、実務必携で基礎から勉強しました。また、表やグラフが白書から出てくることもあるので併せて目を通しました。過去問は基礎を固める前にもとりあえず解いてみて、ある程度できる範囲と苦手な範囲を把握するようにしました。そして実務必携や白書で勉強してから解きなおしました。

・専門試験(記述式)

記述問題は過去問をとにかく解いて感覚をつかみました。また白書を読んで出題されそうなトピックに目を通していました。

◎面接対策

・官庁訪問

内定者の声をみてどのような質問が来るかをイメージしました。また、前年も官庁訪問を行っていたのでリラックスして臨むことができました。訪問者カードの記入には非常に時間を使いました。周囲のレベルが高いことはわかっていたので、「他の人が持っていないであろう自分の武器」がないか考えて記入しました。加えて記入しながら想定される質問をイメージするとともに、自分の考えの根幹はなにか、本質はなにかについて考え、想定外の質問が来ても答えることができるように準備しました。

・二次試験(人物試験)

私は前年に官庁訪問でよい結果が得られなかった後に人物試験があったため、気持ちを立て直すことが重要でした。面接カードの記入欄があまり大きくないため、内容を絞って記入しました。その分口頭でどこまで話を広げることができるかが勝負だと思い、訪問者カードも用いながら併せてよくイメージトレーニングを繰り返しました。

◎内定までの過ごし方、心がけたこと

官庁訪問前は視野を広げるために他大学の雪山実習や環境教育を行うアルバイトなどを行いました。また、研究活動をきっかけに研究会や学会にも参加し、国立公園について知見を深めました。旅行に行くことも結果的に視野が広がるきっかけになったと思います。説明会やインターンシップにも参加し、先輩レンジャーさんの興味深い経験談を聞き、モチベーションをより向上させていました。

官庁訪問後は研究活動を中心に学生生活を送りました。私は環境省 1 本だったため、不安な部分もありましたが、落ち着いて内定までの時間を過ごすように心がけました。

◇ アドバイス、メッセージ

私は官庁訪問の 1 週間前に風邪をひいてしまい、1 日目で訪問を行う予定でしたが、最終日の最後に変更していただくことになりました。体調管理に気をつけることが大前提ではありますが、日程や少しの失敗であれば結果には響かないと思いました。それ以上に面接官の方々は熱意や思いに目を向けてくださっていたと思います。だからこそ自分がやりたいことをしっかりと分析しつつ、視野を広く持ち続けることを意識して官庁訪問までの時間を大切に使ってほしいと思います。息抜きしたい時はぜひ国立公園へ！

内定者 J の場合

◇ プロフィール

最終学歴	大学院修了
学年	既卒
職歴	民間企業・アクティブレンジャー・林野庁
併願先	なし
参加した説明会・回数	自然系 WEB 説明会 1 回
試験区分	農学
専攻科目	水圏生態学

◇ 志望動機

大学卒業後に民間企業等で働くなかで、仕事内容に興味を持ち続けられ、働く意義を感じられる職に就きたいと思うようになりました。これまでの私の人生を振り返ると、一貫して自然環境や野生生物に関心があり、環境省自然系の業務はそれらと合致していることから興味をもちました。その上で環境省自然系職員は、特定の地域を対象とした業務から、国全体の方針の決定にまで幅広く携われる点に魅力を感じ、志望しました。

◇ 内定者体験記

◎全般(勉強方法、勉強スタイル、勉強開始時期など)

まずは、人事院の HP に掲載されている過去の試験データを参考に、倍率や合格に必要な点数を把握しました。試験勉強は、受験年の 5 月頃に本格的に開始しました。

◎一次試験対策

・基礎能力試験

判断推理と数的推理は問題集を使用し、一通りの解法を習得しました。その他の科目は特に勉強はしていません。

試験当日は、文章理解と資料解釈は問題文を読めば確実に答えが分かる一方、判断推理と数的推理は解法が思いつかないと無駄に時間を使ってしまうと考えたため、文章理解と資料解釈を先に解いてある程度の点数を確保し、残りの時間で判断推理と数的推理を解きました。

・専門試験(多肢選択式)

農学基礎セミナーシリーズを参考にしながら過去問を解き進めました。OneNote に試験問

題を張り付け、回答の根拠や周辺知識をまとめて必要な情報を整理するようにしました。また、ちょっとした時間にまとめた内容をスマホで振り返ることにより知識の定着を図りました。知識 0 からのスタートでしたが、ある程度の知識をインプットできれば、点数は伸ばしやすいと科目だと感じました。

・専門試験(記述式)

過去数年分の過去問を確認しましたが、出題内容は図表や問題文の情報を基に自分の考えを論述する形式であり、試験のその場で対応できると考えたため、記述式試験のための対策はしませんでした。

◎面接対策

・官庁訪問

訪問者カードを作成する際は、環境省が求めている人材に必要とされる要素を考え、自分自身がその要素を持っていることを過去の経験をもとにアピールする事を意識しました。また、私は複数回転職を経験しており、一般的な経歴ではないため、これまでのどのような経験から環境省を志望するに至ったかを理解してもらえるように努めました。

面接の対策は、訪問者カードをもとに、自分自身がこれまで取り組んできたことと、その当時何を考え、何を意識して行動していたかを書き出すことで、自分自身の考えを整理しました。一方で、新卒時・転職時で面接経験があることから対面での面接練習は一切行いませんでしたが、本番では緊張してしまい、練習の重要性を痛感しました。

面接当日は、訪問者カードに書いた内容をただ話すのではなく、面接官が何を知りたいのかをくみ取りながら答えることを意識しました。また、どんな質問に関しても自分自身の正直な考えを伝えつつ、前向きな回答を心掛けたことが良い結果につながったのかなと考えています。

・二次試験(人物試験)

特に対策はとらずに臨みました。

◎内定までの過ごし方、心がけたこと

働きながらの挑戦ということもあり、環境省に入省したいという思いは持ちつつも、公務員試験・官庁訪問を受けるという実感をあまり持たないまま過ごしていたように感じます。そのため、試験まで 1 か月を切ったころにようやく勉強を本格化させたり、官庁訪問の対策も十分には行わないまま面接に臨んだりといった状況でした。一方で実感があまりなかったため、普段の生活で焦りや不安をあまり感じなかったのは良かったのかなと思います。

◇ アドバイス、メッセージ

私は大分回り道をしての環境省入省となりました。学生時代の就職活動の際は自分自身の気持ちに正直に向き合うことができず、給与や転勤の有無などを重視し、自分は何に興味があるのか・何を実現させたくて仕事に就くのかといった視点が欠けていたように感じます。しばらく働くなかで、ようやく自分の気持ちに正直に向き合い、環境省に就職したいという思いに気が付きました。

就職活動を進めるなかでは、様々な迷いが生じるかと思います。自分自身に嘘をつかず、しっかりと向き合って、納得できる道に進めるよう頑張ってください。応援しています！

内定者 K の場合

◇ プロフィール

最終学歴	大学院修了
学年	既卒
職歴	カフェのアルバイト
併願先	地方上級(農業)
参加した説明会・回数	自然系の WEB 説明会はほぼ全て
試験区分	農学
専攻科目	微生物生態学

◇ 志望動機

国立公園の保全・管理を通して、多くの人に「自然に感動する体験」と「自然を大切にしようという想い」を広げ、受け継いでいきたいと思い環境省を志望しました。私は大学院での授業、ホテルの保全活動、自主的なゴミ拾い活動などを通じて、自分自身の手で自然を守り、美しい自然を持続させることに貢献したいと強く感じるようになりました。一方で、それらの活動を通じて、自然を守り共存を続けるには様々な立場の人々の理解と協力が必要だと実感しました。環境省のレンジャーは、制度づくりと現場での活動をどちらも行う特殊な立場です。それゆえレンジャーは制度と現場、そして様々な立場の人々と自然を繋ぐ架け橋のような存在であると私は考えています。だからこそ、私はレンジャーとして自然保護と管理に携わることで、より多くの人に自然の美しさ、自然を守ろうという意志を社会に広げていきたいと考え志望しました。

◇ 内定者体験記

◎全般(勉強方法、勉強スタイル、勉強開始時期など)

国家公務員試験の勉強は 10 月頃に開始しました。しかし、修論や学会があったためペースは遅めでした。基本的には過去問を解き解答を調べ知識をつけるということをしていました。私の場合は 3 月に大学院を卒業し、そのまま就職はしなかったため 3 月以降は特に専門科目の勉強に専念しました。過去問の選択肢一つ一つを教科書等で調べ解答を作成し、過去問数年分の解答集を作成し、試験 1 ヶ月前からはひたすら復習と暗記をしていました。過去問を解いていくことで、どんなところが出題されるのかがわかるため、出題範囲は広いものの、効率よく必要なところを覚えることができました。

◎一次試験対策

・基礎能力試験

基礎能力検査対策では過去問のみをやりました。文章理解(英語と国語)に関しては、スピード感や解き方(有効なメモの仕方、選択肢を読んでから解くか否かなど)を試しながら数年分解き、満点を狙えるようにしました。

数学系科目は解き方を覚えつつ、時間を意識して練習しました。間違えた問題は復習して解けるようにしました。基礎能力検査よりも専門試験の勉強に比重を置いていたため、全て解けるようするというよりは、解ける問題と解けない問題をすぐに取り捨選択することも意識していました。確実に解ける問題を確実に解くのが大事だと個人的には思います。

・専門試験(多肢選択式)

専門科目では、過去問と問題集(スーパー過去問ゼミ)を解きました。

過去問では、自身の専門分野ではなかったため初めはほとんど解けませんでしたが、かなり手間はかかりましたが、一つ一つの選択肢について、インターネットや教科書(農学基礎セミナーシリーズ)で調べ、自作の過去問解答集を数年分作成し、繰り返し解きました。これによってかなり知識がつかまりました。併用して問題集も繰り返し解くことで知識をつけ、問題慣れをしました。

出題範囲は広いですが、どこが問題として取り上げられるのかがわかるようになり、点数も伸びていきました。個人的には過去問を解きながら解答づくりをするのがおすすめです！

・専門試験(記述式)

記述に関してはあまり対策はしていません。白書の初めの方にあったトピックは直前に読んでおきました(今年はそこから出ることにはなかったと思います)。

◎面接対策

・官庁訪問

志望動機は、どんな経験によって成し遂げたい想いが芽生え、それがなぜ環境省のレンジャーで実現できるのか、なぜ企業や活動団体ではないのかを深掘りしていくと説得力が増していくと思います。また、自分自身が実際に働いているイメージをしっかり持つことも重要です。現地に住む様々な立場の人と関わっていく中で、意見の異なる相手と調整し結論を出していくイメージを深めると、どんな風に自分の強みを活かせるか見えてくると思います。面接官に働いているイメージを明確に持たせることができればとても良いと思います。面接練習に関しては、大学時代の友人に頼み、オンラインで面接練習を何度か行い、内容をアップデートしながら言葉で伝える練習をしました。

自己分析は自分の中の言葉になっていない想いを言語化するととても大事な作業だと思います。自分はこんなことを思っていたのか！という新しい発見もあると思うので楽しんでやって

みてください！

・二次試験(人物試験)

人物試験に関しては特別なことはしませんでした。官庁訪問の際に伝えた想いを改めて確認し、落ち着いて臨めば大丈夫だと思います！

もちろん面接練習を積むのも良いと思います！

◎内定までの過ごし方、心がけたこと

私は6月に一次試験が終わった後、1ヶ月間で自己分析や面接準備をしました。既卒で仕事もアルバイトだったため時間をとることができましたが、それ以前から自己分析をして面接準備をしておいた方が良かったと感じました。上述しましたが、自分の中の様々な経験や想いを言語化して、話せる内容の引き出しを増やしておくことがとても大事だと思います。

勉強も面接対策も大変だとは思いますが、楽しく取り組む工夫をしてみると良いと思います！

私の場合は、カフェに行っておしゃれなノートに書き込みながら自己分析をしたのでとても楽しかったです。

☆ アドバイス、メッセージ

就職活動は精神的にも肉体的にもとても大変だと思います。思うような結果にはならないかもしれません。私自身、大学院生時代に研究をそっちのけで就活をしていましたが、最終的に望んだ結果にはなりません。自分の未来はどうなってしまうんだと深刻に悩みました。しかし、そのおかげでレンジャーという、本当にやりたい仕事を見つけ、内定を頂くことができました。

私たちはどんな仕事をするか、どんな会社に入るのかを、重大なことのように考えすぎていると思います。しかし実際にはどんな結果になってもそれまで見えなかった新しい道、選択肢が見えてきます。むしろそっちがより自分にあっていたなんてことが多いかもしれません。

就職活動は自分がどんなことをしたいか、どんな風に働き、どんな風に成長したいかを知るととても貴重な機会だと思います。だからこそ、結果に執着しすぎず、学んだり、自分についてより深く知るという行為自体を楽しんでほしいです！そしてこんな仕事をして、こんな生き方ができたら素敵だな～とワクワクしながら、取り組んでみるといいのではないかと思います！

内定者 L の場合

◇ プロフィール

最終学歴	大学卒業見込み
学年	学部 4 年
併願先	独立行政法人・地方上級(環境)
参加した説明会・回数	職員訪問1回・業務説明会 20 回以上
試験区分	農学
専攻科目	植物生態学

◇ 志望動機

人と自然の共存という分野から、環境資源の保全と活用を通じて、地域が抱える課題の解決に取り組みたいからです。小さい頃に経験した身近な環境破壊により、親しんだ自然が失われる悲しさや危機感を覚え、将来は環境保全に携わりたいと考えました。加えて、地方で生まれ育ったことから、日本の地域が抱える問題を経験しており、将来故郷がなり行かなくなるかもしれないという危機感を感じています。それらの経験から、大学生活の中で培った「人と人とを繋ぐ力」を、人と人のコーディネート役であるレンジャーとして、環境資源が豊かな地域でその保全を行い、同時に活用することで、地域課題を解決することに取り組むたく志望しました。

◇ 内定者体験記

◎全般(勉強方法、勉強スタイル、勉強開始時期など)

本格的に勉強を始めたのは、大学の公務員講座が始まった5月ごろでした。5月から8月ごろまでは教養を中心に、8月から2月ごろまでは専門に力を入れました。8月ごろまでは漠然と教養の過去問を解いていたのですが、専門の配点が高いことから、それ以降は専門に力を入れて取り組みました。

◎一次試験対策

・基礎能力試験

過去問を中心に勉強しました。私の場合、数的処理がどうしても苦手で、かなり時間を割いて勉強したのですが点を取ることができなかったので、数的の中でも得意な分野に絞って勉強したり、得意な文章理解や時事で確実に点を取れるようにしました。

・専門試験(多肢選択式)

過去問とスーパー過去問ゼミで勉強を進めました。初めは過去問を解いていても、全く分からなかったため、解説がついている過去問ゼミである程度問題を解けるように勉強してから過去問で実践に移りました。

・専門試験(記述式)

過去問を中心に勉強を進めました。大学入試以来、長い文章を書くことが無く記述式になれていなかったため、長文を書くことや自分の考えを文章で分かり易く書き表すために、起承転結を意識した長文を書く練習を、過去問を数年分解いて行いました。

◎面接対策

・官庁訪問

環境白書を印刷して読み込みました。その中で、自分が特に興味を持っている分野や、その分野ではどのような課題があるのか、その課題を解決するためにはどうすればよいか、そこに自分自身の経験や特性をどう活かすことができるのか、また業務説明会やインターンシップ、職員訪問で学んだことや印象に残ったことを付箋に書き込んで整理しました。そうすることで自分の考えを目に見える形に整理することができ、面接官の方に分かり易く伝えることができましたと思います。

・二次試験(人物試験)

志望動機や入省することができたらやりたい仕事、自己 PR などの面接の内容は官庁訪問のために頑張って準備したものがあったので、人事院の人物試験でも官庁訪問の時と同じように分かり易く伝えることができるよう、思い出して整理を行いました。

◎内定までの過ごし方、心がけたこと

私の場合、周囲に一般企業志望の友人が多く、企業の方が公務員よりもかなり早く内定が出るので、とても焦った時期もありました。内定まで落ち着かず考えこんでしまったので、外に出て趣味の SUP や登山、クライミングで体を動かしてあまり考えこまないようにしていました。

◇ アドバイス、メッセージ

公務員試験は長丁場です。大学では卒論の調査などやらなければならないことが山積みで、私生活では周りがどんどん内定が決まり遊んだり髪色が変わっていく中で、とても焦る辛い時期もあると思います。特に倍率や難易度の高さを聞いていたことから、「頑張っても無駄になるんじゃないかな」とどうしてもネガティブになってしまいましたがありました。そんな時でも、ここまでの頑張りや確実に積み重なってあなたになっているので、あまり焦らず、まずは美味し

いものを食べて体から癒してあげてください！大変な中でも夢に向かって踏ん張っているあなたを心から応援しています。

内定者 M の場合

◇ プロフィール

最終学歴	大学卒業見込み
学年	学部 4 年
併願先	地方上級(林業職)・国家一般職(林野庁)
参加した説明会・回数	自然系採用説明会(web) 2 回
試験区分	林学
専攻科目	森林生態学

◇ 志望動機

大学 2 年次のときに知床国立公園を訪問した際に、国立公園が有する豊かな自然環境や景観に強く惹かれるとともに、地域住民が主体となった環境保全活動の存在や、野生動物と人間の軋轢などの課題について知りました。レンジャーとして行政と現場である地域を繋ぎ、国立公園の維持管理および自然環境の保全などに貢献したいと強く思い、環境省を志望しました。

◇ 内定者体験記

◎全般(勉強方法、勉強スタイル、勉強開始時期など)

大学 3 年の 3 月から勉強を始めました。

◎一次試験対策

・基礎能力試験

試験勉強を始める時期が遅かったので、勉強する分野を絞って、判断推理、数的推理、資料解釈を中心に勉強していました。この 3 つは勉強すれば満点も狙えるのでひたすら演習していました。やみくもに解くだけでなく、苦手な分野と得意な分野をチェックして、苦手をできるだけ少なくするように心がけて勉強していました。

文章読解や英語、時事などは難易度が高くないのに加えて、演習をしても伸びないと思い、特に勉強はしていませんでした。

・専門試験(多肢選択式)

大学で林学や森林生態学について学んでいたもので、基本的な知識は身につけていました。

森林林業実務必携や森林林業白書を何度も読み込み、専門用語や近年の林業に関する情報、傾向などを暗記しました。

また、国家一般職の林学や地方上級の林業職の過去問で演習を行いました。ただ解くだけでなく、選択肢で出てきた全ての選択肢を、森林業実務必携を用いて復習するようにしていました。

・専門試験(記述式)

記述式の試験勉強はほとんどしませんでした。

国家一般職と東京都の過去問を3年分程度解きました。

◎面接対策

・官庁訪問

面接の練習や訪問者カードの添削などは特にしませんでした。

自分の軸がしっかりしていれば、どんなことを聞かれてもスムーズに答えられるだろうと考えていたので、自分の性格や興味があること、今までやってきたこと、環境省をなぜ志望するのかなどをノートに書き出していました。

当日は自分を取り繕わずに試験官と会話することを意識していました。

・二次試験(人物試験)

特に対策はしませんでした。

◎内定までの過ごし方、心がけたこと

学部3年まではできるだけたくさんフィールドに出て、自然を見て学ぶことを意識して過ごしていました。試験勉強を始めてからは、研究と並行して勉強を進めなければならなかったのので、研究をする日と試験勉強をする日のメリハリをつけて取り組むように心がけていました。

☆ アドバイス、メッセージ

サークル活動やアルバイト、ボランティアどんな場所でも構わないので、実際にフィールドに出て、自然や環境に関する活動に参加してほしいと思います。そこで経験したことや、見て学んだこと、考えたことは必ず役に立つと思います。

また、就職活動を進めていく上で、辛いことや苦労することはたくさんあると思います。そのようなときはストレスを溜め込まずに、友人や家族と話したり、息抜きに遊んだりして、自分のペースで就職活動を進めて欲しいと思います。諦めず頑張ってください、応援しています！

内定者 N の場合

◇ プロフィール

最終学歴	大学卒業見込み
学年	学部 4 年
併願先	地方上級(総合土木)
参加した説明会・回数	自然系 web 説明会・自然系 web 座談会・霞ヶ関 OPEN ゼミ各 1 回
試験区分	農業農村工学
専攻科目	地域環境工学

◇ 志望動機

レンジャーの存在を知り、自然豊かな国立公園という唯一無二の職場で働けるとところに惹かれました。また、自分が守りたい自然は農業分野の自然よりも環境分野の自然ではないかと思いい、環境省に関心を持ちました。

◇ 内定者体験記

◎全般(勉強方法、勉強スタイル、勉強開始時期など)

第一志望は環境省一般職でしたが、同じ試験区分で総合職試験も受験しました。理由は次の三点です。①総合職の試験は一般職の第一次試験日までに合格発表までのすべての工程が終わり一般職試験に干渉しないこと②一般職試験と試験構成がよく似ているため予行練習になること③勉強せざる得ない状況に自分を追い込むため。しかしなかなか勉強に取り組む気になれず、結局、直前期に慌てて計画を立てて勉強を始めました。

◎一次試験対策

・基礎能力試験

得意分野なのでとくに勉強しませんでした。

・専門試験(多肢選択式)

配点が大きく試験範囲も狭いため、力を入れて学習するならこの試験だと考えて一番真面目に勉強しました。過去問を解き、わからなかった問題を大学のテキストやノートで確認するという形式でした。

・専門試験(記述式)

知識というよりは、学んだことや経験をもとに自分の考えを組み立て文章にする試験のように感じました。総合職試験の記述試験を受けた際、時間配分と文章構成で盛大に失敗したので、今度は失敗しないように心がけました。

◎面接対策

・官庁訪問

東京に行くこと自体初めてで、交通手段や宿泊の段取りなどを組むのに慣れず非常に苦労しました。就活期間中ずっとストレスで謎の体調不良が頻発していましたが、とくに官庁訪問のために東京にいた間は、雨や暑さに体力を削られ複雑な交通網に困惑しっぱなしでほぼ常に体調が悪く、コンディション最悪でした。東京に着いてから訪問者カードを読み直そうと思っていましたが、疲れすぎて読む時間はあまりありませんでした。ただ、自分の分野が環境とは畑違いだからこそ、「なぜ環境省を選んだのか」が説得力と熱意をもって語られることが大事だと考えて、志望理由を予めよく考えておいたことは実際の面接でも役に立ったと思います。

・二次試験(人物試験)

第二次試験・官庁訪問どちらでも、面接カードに嘘は書かない、ということが大切だと考えて面接カードを作成しました。何の話題なら澁みなく話せるか、自分の何をアピールしたいかを整理して、深く訊かれると詰まりそうな部分には事前に対応を考えておくようにしました。就活で何度か面接を受けて慣れていたため、この面接にはリラックスして臨めました。

◎内定までの過ごし方、心がけたこと

正直、官庁訪問が終わってからは就活がひと段落がついた感覚で、全部忘れて大学の研究活動に注力していました。

◇ アドバイス、メッセージ

国家公務員試験を受けるかどうか迷っている方も、過去問だけは早めに人事院に申請して入手しておいたほうが良いです。また、もし万が一精神的・スケジュール的に余裕があるのであれば、総合職試験を受けて予行練習をするのもアリだと思います。実際、私は総合職試験を受けたおかげで試験の雰囲気をつかめて、一般職試験はほとんど緊張なく臨めたように思います。

官庁訪問のために地方から東京へ行くことに不安を覚えている方は、たとえば面接前日に東京で宿泊して面接翌日に観光してから帰るような、余裕のあるスケジュールを立てるのがおすすめです。余裕があれば忘れ物も早めに対処でき、また万が一面接で失敗したとしても翌日には観光で気分を入れ替えて、お金も時間もかかったけれどそれなりに価値のある旅行だった

たと思えるようになると思うからです。

農業農村工学の試験区分で受ける人は、専攻的に環境省にOB・OGが少なく情報が入りにくいと思います。仕事のことを聞きたければ環境省の説明会に参加したり、もし近くの国立公園のレンジャーに話をきけるなら聞いてみるのもいいと思います。試験に関する話は大学の先生や先輩に詳しい人がいたり、他省庁(農水省、国交省など)の説明会でも聞けるかもしれません。私の場合は農水省のOBの方に第二次試験の面接カードの書き方をうかがい、大学の先生経由で知り合った環境省OGの方にオンラインOG訪問をしました。官庁訪問の情報はとくに手に入りにくいですが、それこそこの「内定者の声」が一番参考になると思います。周りの方のサポートを受けたり、自分に合った方法を模索して、大変な時期をうまく乗り越えていただけたらと思います。

内定者 O の場合

◇ プロフィール

最終学歴	大学院修了
学年	既卒
職歴	一般企業
併願先	なし
参加した説明会・回数	環境省自然系官庁合同業務説明会 1 回
試験区分	林学
専攻科目	古生物学

◇ 志望動機

山や自然史博物館を訪れたことをきっかけに自然や生き物に関心を持ち、幼いころから自然の中で過ごすことが好きでした。

大学卒業後は企業に就職しましたが、自然をただ楽しむだけではなくもっと深く知り貢献出来たらという気持ちがあり、休日には森林インストラクターや自然公園のボランティアとして、自然観察会や登山道整備などに携わりました。

現場でレンジャーの方や先輩方が、自然環境の保全と利用の両立に真摯に取り組む姿を見て、自分も長期的な視点で自然保全を推進し、多くの人にその魅力を伝えられる存在になりたいと感じました。

こうした経験から、より多くの時間を自然環境の保全に注ぎたいという思いが高まり、志望いたしました。

◇ 内定者体験記

◎全般(勉強方法、勉強スタイル、勉強開始時期など)

勉強期間は試験半年～9 ヶ月ほど前から始めたと思います。範囲が広いため、最初に全体を把握したあと、分野ごとに分けて取り組むことを心がけていました。

◎一次試験対策

・基礎能力試験

専門試験を重視していたので、それほど多くの時間はかけていませんでした。過去問を一度解き、その時点で点数がとれておらずかつ点数が伸びそうだと感じた判断推理・数的推理についてスーパー過去問ゼミを使って練習していました。人文科学系の問題など苦手な分野には、

あまり時間をかけないようにしていました。

・専門試験(多肢選択式)

森林・林業実務必携と、森林・林業白書、過去問を使って勉強していました。大学時代に取った授業などで若干の知識はありましたが、知識にむらがある状態でした。まずざっくり実務必携と白書に目を通して全体を把握した後、過去問を使って勉強しました。過去問を1年分解き、間違えた所、分からなかった部分について実務必携や白書を読み、覚えたいところについてはノートに書いてまとめていました。移動時間には実務必携やまとめたノートに目を通していました。

・専門試験(記述式)

基本的には、多肢選択式専門試験と同様に勉強をしていました。勉強の中で出てきた単語について自分で説明できるか、ということや事柄のつながりを意識して整理するようにしていました。数年分過去問を解き、文章を作成する練習をしていました。

◎面接対策

・官庁訪問

聞かれそうな質問を予想して準備していました。練習にはチャット GPT 等を使って考えを整理していました。

特に自分がどうして環境省を志望しているのか、環境省に入って何をしたいのか、どうして社会人を経て志望しているのかという点について自分の言葉で語れるように整理しました。

自然に関わりたい貢献したいという気持ちを、飾りすぎず素直に相手に伝えられるように意識しました。

・二次試験(人物試験)

官庁訪問同様、基本的な面接の質問に加え、面接カードの中から質問されそうな部分を予想して回答を準備してのぞみました。

◎内定までの過ごし方、心がけたこと

試験や面接のたびにとても緊張していました。

あまりこれしかないと思い詰めすぎると良くないと感じていたため、できるだけ深刻に考えすぎないようにしようと思っていました。

たとえレンジャーに採用されなくても、自然に関わる方法は他にもあると思います。

私の場合はボランティアとしての活動をしていたのでその活動に参加したり、もっと自然に近い場所に引っ越すことなど考えていました。

◇ アドバイス、メッセージ

私は一年で全ての試験を受けたのではなく、1年目に基礎能力試験と専門試験を受けた後、2年経ってから官庁訪問に臨みました。

新卒の時から自然に携わりたい気持ちはありましたが、どのような形で関わりたいか確信が持てなかったからです。

最終的に現場で勤務されている方々と一緒に作業したことで、環境省の一員として働きたいと確信し、官庁訪問し内定をいただきました。

自然に関わっていきたいと思うのであれば、様々なところで自然に関わる活動は行われているのでチャンスがあれば学生のうちから、社会人になっても、実際に参加してみるのが良いと思います。

皆様が納得のいく結果が得られますよう、応援しています！

内定者 P の場合

◇ プロフィール

最終学歴	大学卒業見込み
学年	学部 4 年
併願先	林野庁・地方上級(林学)
参加した説明会・回数	本府省合同業務説明会(1次試験合格者対象)1 回
試験区分	林学
専攻科目	森林生態学

◇ 志望動機

野生動物の生息環境の悪化や人との軋轢の増加といった問題に直面する中で、「人と自然の共生」を目指し、人間社会と自然環境の橋渡しを行う立場に強く魅力を感じ、環境省の自然系職員を志望いたしました。

◇ 内定者体験記

◎全般(勉強方法、勉強スタイル、勉強開始時期など)

私は勉強を始めたのが遅かったので、計画自体は他の方を参考にした方がよいと思います。が、反面教師にしていただければと思いますので素直に書きます。

私は大学が林学系だったため、専門は林学受験と決めており、専門試験に関しては余裕がありました。そのため、教養試験の対策を先にはじめ、その後専門試験の対策を始めました。ちなみに大学入学時から公務員試験は視野に入れていましたが、実際に公務員試験を受けると決めたのは受験の1年程前です。

◎一次試験対策

・基礎能力試験

受験の前年の10月ぐらいに問題集を買い、3か月ほど寝かせました。その後、受験の年の冬休み(つまり受験の半年前)から判断推理、数的推理を繰り返し勉強しました。この分野は解き方がある程度決まっていやるだけ点数が伸びるので力を入れました。他の科目は当たればラッキーぐらいの気持ちでした。

・専門試験(多肢選択式)

前述の通り、私は大学が林学系の学科だったため、専門試験/林学の基礎的な知識がありま

した。そのため、過去問を解き、間違いをチェック、確認、覚えてもう一周、という流れで勉強していました。が、それを始めたのは受験する年の3月(つまり受験の2か月前)です。過去問は5年分取り寄せましたが、きちんと上記のプロセスを踏めたのは3年分で、2年分はさらう程度でした(その頃には問題形式に慣れていたので捨て問探しをしている感覚でした)。

・専門試験(記述式)

どのようにすればいいかわからなかったのが、過去問に出たキーワードの部分を林業白書で読み、コラムも確認する、ということをしていました。今思えば、小論文を書くような課題を行っておくと書き方や構成の参考にできたのかもしれない。

◎面接対策

・官庁訪問

訪問者カードは研究室の卒業生で公務員として働いている先輩方に添削していただきました。自己分析や面接慣れのため民間を受けていたので面接練習はほとんどしていませんでしたが、想定回答は軽く考えていました。

また、インターンに参加していたので、現場で感じたこと、考えたこと、そこで今後自分が働くことになったら、などは考えていました。

面接は緊張するものと覚悟していましたが、面接会場まで行って椅子に座ったときに「まさか私が環境省に受かることはないのではないかと感じはじめ、憧れの組織の職員の方と好きに話せるならそれでいいか!と開き直って面接を受けました。結果的にこの緊張しすぎなかったのがよかったような気がします。

・二次試験(人物試験)

受験地が遠く、始発でも間に合わなかったのが一番印象に残っています(たまたま同じ場所に同じ時間の受験だった友人と前泊しました)。あまり記憶に残っていないのですが、オーソドックスな面接だったのだと思います。

◎内定までの過ごし方、心がけたこと

筆記試験までは息抜きに飲み会に行ったり、調査地に出かけたり、卒論のデータをまとめる(と称して研究室でだべったり)などをしていました。

筆記試験後は訪問者カードを作成していましたが、私は(筆記で落ちたら無駄になるのか…)と思うと筆が進まず、結果直前に焦ることになったので、絶対受かるんだ!という気持ちで訪問者カードに取り掛かることをお勧めします。

試験終了後は合否結果を考えてそわそわして時間を無駄にしたくなかったのが、ずっと調査(動物生態系のフィールドワーク)に出ていました。自分の調査より同期や後輩の調査への同行

が多かったですが、自身の学びにもなりましたしよい選択だったと感じています。環境省の可否に関係なく来年から社会人であることは決まっている状態だったので、学生でしかできないことを全部やっておくことを心がけました。

◇ アドバイス、メッセージ

公務員試験は決まるのが遅く精神的にきついこともあるかもしれませんが、今しかできないことを楽しみつつ前向きに頑張ってください。

内定者 Q の場合

◇ プロフィール

最終学歴	大学卒業見込み
学年	学部 4 年
併願先	地方上級(林学)・IT 会社
参加した説明会・回数	自然系業務説明会(WEB)2 回ほど
試験区分	林学
専攻科目	森林生態学

◇ 志望動機

小学生の時に絶滅危惧種の猛禽類の存在を知ったことで、絶滅の危機にある動植物の保全に関わりたいと思っていました。

もともとは野生生物を対象とする獣医を目指していたのですが、生態系保全の考え方を知り、各個体を守るのではなく住処や餌など広い範囲を対象とした保全が必要だと考えるようになりました。

生態系全体を保全するには地域の人など、その土地の方々と共に活動が続けていく必要があります。レンジャーが仕事として絶滅危惧種の保全を行うと知っていたこと、地域の自然再生活動で環境省の方と関わる経験があったことから環境省で生態系保全や自然再生に取り組みたいと思い志望しました。

◇ 内定者体験記

◎全般(勉強方法、勉強スタイル、勉強開始時期など)

・開始時期と当時の知識

大学 3 年のお正月に勉強を始め、それまでは一切勉強していませんでした。

3 年の 9~10 月に林業白書を読むゼミを受けていましたが、あまり印象に残っていませんでしたのでよほど真剣に取り組まない限り、そのようなゼミに参加してもしなくても変わらないかもしれません。

・進め方

勉強の開始時点で、本番までに何をどれだけ勉強するかざっくりと予定を立てました。

→過去問 2.3 年分を使う、数的処理は 2 月末までに終わらせ 3 周する等

毎日こなせる量を設定し、バッファの時間を設けながら一週間の勉強予定表を組んでいました。

時間がかかっても納得できるまで取り組み、予定が押す場合はバッファの時間でできなかったことをこなしていました。予定表は絶対を守るものではなく、先日何をしたか、予定より大幅に遅れていないか、一週間で林学と基礎能力試験の対策でかける時間に差がないかなどの確認に使っていました。

朝は家、昼は図書館、夜は居室というようにいろんな場所で勉強して飽きないようにしていました。

勉強だけしているわけにはいかないなので、研究やバイトなどをしながらもモチベーションと焦燥感を持ち続けるのが大変でした。

◎一次試験対策

・基礎能力試験

動画の通信教材を使用していたので、動画を見ながら進めていました。数学が苦手だったので数的処理から開始し、復習しつつ 2 月末で全範囲を終わらせました。その後は 2.3 周目と解きなおしを行っていました。範囲が広いので、マメに復習し忘れないようにするのが大事だと思います。国語と英語は得意だったので文章理解は試験直前に問題だけ少しふれ、他の科目は全て捨てました。数的処理しか本格的にテキストを使わなかったので基礎能力試験の科目全てを受講する契約にしたのはもったいなかったかもしれません。過去問はほぼ使っていませんが、特に困りませんでした。

試験本番は解けるものからどんどん解き、時間がかかりそうなものはマークだけして後回しで進めました。私は文章理解を可能な限り速く解いても数的処理に時間がかかりすぎて時間がぎりぎりでした。

私は過去問を本番と同じ時間制限で解く練習をしませんでしたが、事前に自分がどれくらい解くのにかかるか確認してみることをお勧めします。

・専門試験(多肢選択式)

ほとんど知識がない状態からのスタートだったので、過去問をノートに写し、わからない単語や間違いとなる箇所は白書や実務必携で調べて赤を入れ、知識を増やしていきました。参考にしたページは記録して再度調べやすいように工夫していました。毎日前日までの復習を行い、1 年分が終われば解いてみて、間違えたところを復習する、というのを繰り返しました。覚えにくいものや想像しづらいことは PC で調べて具体的なニュースや論文を参考にするようにしていました。

復習は読み返すだけではなく常に過去触れた問題が解ける状態になることで完了とし、毎日かなり復習の時間をとっていたと思います。過去問は 2.3 年分しか触れることができませんでしたが、たくさん解きすぎるより全体や物事の流れを理解していることが重要だと思います。また眠くなる朝や夜に白書の音読を行い、録音して化粧中や通学中に聞いて理解を深めました。

試験本番は慌てず丁寧に文章を読むことが重要だと思います。

・専門試験(記述式)

良い対策方法が分からなかったので、過去どのような問が出されていたか確認しました。また最近の林業の課題について把握しておくこと、林業の用語を理解しておくように気を付けていたと思います。文章を書くのは苦手ではなかったので練習はしませんでした。試験本番では書き直しはできないと考えて、問を読み、どのように書くかある程度詳しく筋道たててから書くようにしました。

◎面接対策

・官庁訪問

面接の2週間前くらいから3回ほど面接練習をしたと思います。大学のキャリアセンターで訪問者カードの添削を受け、何度か面接練習をしてもらいました。キャリアセンターの方も専門知識がある方ばかりでないので、カードの添削と一般的な質問に答える練習をしました。簡潔に話すのが苦手だったためそのような基本的なところを鍛えていきました。

専門的な内容は自分で突っ込まれそうなところを考えて一人で練習をしました。慌てないように、考えられる質問に対する答えを全て覚えるようにはしていましたが自然体を意識して面接に挑もうと考えていました。すでに県の林業職の面接で面接に慣れることができたためあまり真剣に練習していなかったかもしれません。

キャラクターを作って面接に挑んでしまうと、採用する方にもされる方にもよいことがないと考えていたので、あくまでお話をしに行くだけと考えて自然体を意識していました。

・二次試験(人物試験)

官庁訪問と同じく、キャリアセンターの方に面接カードの添削、面接練習をしていただきました。

◎内定までの過ごし方、心がけたこと

私は一日の多くが勉強の時間でしたが、学生は就職活動だけがメインの仕事ではなく研究や授業を受けること、研究室の行事に参加することも大事だと思うので、試験対策に取り組みつつ勉強だけに偏りすぎないように意識して生活をしていました。会話したり体を動かすことが自然と気分転換や息抜きになり、研究に取り組むことは将来どのようなレンジャーになりたいかという理想像を作るのに役立ったと思います。

また、あこがれと実際の職務にギャップを作らないためにもインターンシップに参加するのが良いと思います。私は3年生の夏休みに釧路の事務所にインターンシップを受け入れていただいたのですが、現場の空気や地域の人との関わり、現在も続く課題に対処する様子などにつ

いて学ばせていただきました。

もともと釧路湿原での野生生物保護活動に興味があり、レンジャーになれなくても現場に行ってみたいという気持ちがありました。インターンシップに参加したことで視野が広がり、職務の理解も深まりました。やはりレンジャーになりたいんだと気持ちを確認することができたと思います。

大学生活でも環境省の方も参加する地域の自然再生活動に参加していましたが、そのような場に行き、レンジャーの人と関わることで働く様子を想像しやすくなると思います。

◇ アドバイス、メッセージ

心と身体の健康に気を付け、日々の小さな喜びを大切に、勉強をストレスの対象にならないようにするのが重要だと感じました。落ち込む日や勉強に取り組めない日もあるかもしれませんが、自分を追い込みすぎず、適度な焦燥感で頑張ってください。身に付けた知識は必ず役立つと思います。

試験対策に熱中すると研究が進まず焦ってしまったり、友達が遊んでいる様子に羨望のまなざしを向けてばかりになってしまうかもしれません。息抜きも予定に組み込んで楽しく過ごす時間を大切にしてほしいです。また自分がなぜレンジャーになりたいのかじっくり考えたり、実際に働いている様子を想像したりして、夢を膨らませるのもやる気や楽しさにつながると思います。

私はアニメや運動が好きだったので、疲れた日は一人でアニメを見たり、いい天気の日には鳥をみたり友達を呼び出してキャッチボールをしたりと色々なことをしていました。

レンジャーを目指す皆さんも、好きな自然と触れ合いながらレンジャーを目指す理由や情熱を大切に、日々を過ごしてもらえればと思います。心から応援しています、頑張ってください！

内定者 R の場合

◇ プロフィール

最終学歴	大学卒業見込み
学年	学部 4 年
併願先	地方上級(林業)・林野庁・文部科学省・環境コンサルタント
参加した説明会・回数	自然系 Web 説明会 12 回・OB 訪問
試験区分	林学
専攻科目	森林生態学

◇ 志望動機

部活動や趣味で国内外を訪れた経験を通じて、日本の自然の豊かさを再認識しました。しかし、同時に気候変動や生活様式の変化により、その自然が急速に変化している現状を肌で感じ、強い危機感を抱くようになりました。

また、地方事務所のインターンシップに参加した際に、環境保全を実現するには、現地の関係者との密な連携が何よりも重要になることを学びました。

環境省の一員として、行政の立場から地域と密接に協力し、共に自然環境を保全するとともに、その重要性和魅力を国内外の多くの人に伝えたいと考え環境省を志望しました。

◇ 内定者体験記

◎全般(勉強方法、勉強スタイル、勉強開始時期など)

大学の公務員講座を受講し、大学 3 年生の夏から本格的に勉強を始めました。

◎一次試験対策

・基礎能力試験

出題数が多い数的処理と文章理解を中心に対策していました。

・専門試験(多肢選択式)

総合職・一般職の過去問をそれぞれ 6 年分解きました。「森林・林業白書」と「森林・林業実務必携」を参考に、問題文に出てきた内容をノートにまとめました。同じく林学を勉強していた大学の友人の 5-6 人で、週に一度勉強会を開いて一緒に勉強していました。

・専門試験(記述式)

記述試験については、特別な対策はしていませんでした。過去問 6 年分に目を通し、自分なりに簡単に解答を考えました。

◎面接対策

・官庁訪問

私は面接に苦手意識があったため、とにかく数をこなすことを意識しました。「面接は慣れ、数をこなせば自然と話せるようになる」と先輩にアドバイスをいただいたからです。具体的には、公務員講座や大学のキャリア支援センターなど、利用できるものは可能な限り利用しました。さらに、研究室の先輩や友人に訪問者カードの内容を徹底的にチェックしてもらい、練習にも何度も付き合ってもらいました。

・二次試験(人物試験)

人事院面接も先輩や友人に想定質問を考えてもらい、それに対する回答をノートにまとめていました。1 度受けた質問に対する回答に必ずすらすらと答えられるように、ノートを見返すことでキーワードを暗記していました。

◎内定までの過ごし方、心がけたこと

冬の期間は、図書館と大学の公務員事務局を行き来し、試験勉強や面接対策などの選考対策に集中して取り組んでいました。また、長期戦である公務員試験でモチベーションを維持するために、定期的によりフレッシュをすることを意識しました。趣味の旅行やランニングの時間を確保することで、意識的に気分転換を図りました。さらに、同じ公務員志望の人と話して情報を交換したり、悩みを共有したりすることで互いに励まし合いました。適度な息抜きと、共に頑張る仲間が存在があったからこそ、私は公務員試験を乗り切ることができたと感じています。

◇ アドバイス、メッセージ

私が環境省のレンジャーを志し始めたのは、大学 3 年生の秋でした。それまでは、卒業生が多く就職している林野庁を「なんとなく」目指していました。しかし、インターンシップや説明会に積極的に参加し、多くの方のお話を聞くことで、「周囲がみんな就職するから」「大学で学んでいる分野だから」と就職先を安易に決めるべきではないことを実感しました。就職活動を進める中では、「自分が心から興味を持てる仕事は何か」を真剣に掘り下げ、自分の気持ちに正直になることが何よりも大切だと思います。自分の本心と向き合い、納得できる道を選んでください！

内定者 S の場合

◇ プロフィール

最終学歴	大学卒業見込み
学年	学部 4 年
併願先	環境コンサルタント企業
参加した説明会・回数	自然系 web 説明会 10 回・霞ヶ関 OPEN ゼミ 1 回 本府省合同業務説明会 1 回
試験区分	林学
専攻科目	群集生態学

◇ 志望動機

日本の豊かな自然環境と生物多様性を保全し、後世へ伝えていくことに貢献したいと思い、環境省を志望しました。幼少期から自然と触れ合う中で、小学生の時に遊んでいた空き地が宅地化され自然が破壊されてゆく姿を目の当たりにしました。大学で生態系保全を学び、授業や実習を受ける中で自然が消失することに強い危機感を覚え、自然と関わる仕事に就きたいと考えるようになりました。

◇ 内定者体験記

◎全般(勉強方法、勉強スタイル、勉強開始時期など)

人事院の過去問が届いた大学 3 年の 12 月頃から勉強を開始しました。まず内定者の声や過去問、ネット情報を参考に情報収集を行い全体の勉強方針を決め、基礎能力・林学共に最低限 6 割を取れるように対策しました。

◎一次試験対策

・基礎能力試験

過去問中心で勉強しました。過去問 5 年分に加えて、判断推理・数的推理に関しては畑中敦子シリーズを使って、頻出の問題を中心に繰り返し解いて解法を習得しました。時事問題は速攻の時事を購入して暇な時間に読んでいましたが、日々のニュースや新聞を読んでおけば十分対策できると感じました。

基礎能力試験は試験時間内で全問解答することが難しかったため、過去問は毎回時間を計って解きました。その際に解く順番や捨てる問題の見極めなども想定したことで、試験当日も慌てることなく対処出来ました。本番前は 6 割を確実に取る戦略、解く順番、時間配分や数的

推理で出る公式などをメモに整理して確認していました。

対策のポイントは全範囲を網羅することは大変時間がかかるため、適切に取捨選択をすることだと思います。私の場合は文章理解や判断推理、時事問題に自信があったので資料解釈や数的推理は最低限の対策に留めていました。

・専門試験(多肢選択式)

基礎能力と同じく過去問中心で勉強しました。内定者の声を参考に過去問5年分と森林・林業白書を用意して対策しました。過去問を解き、それをノートに貼って森林・林業白書や林野庁HPを参考に間違った選択肢を正しく修正して周辺知識も含めてノートに書き込んでいました。このサイクルを5年分繰り返した頃にはある程度出題傾向を把握できるようになっていたため、森林・林業白書を読み込み出題されそうな箇所や図表に付箋やマーカーで印を付けてよく見返していました。また、大学の図書館で林学の書籍や森林・林業実務必携を借りて森林・林業白書と林野庁HPでカバーできない知識を補いました。

・専門試験(記述式)

過去問に目を通す程度で特に対策は行いませんでした。多肢選択式の対策を行う過程で記述に必要な前提知識は身に付くと思います。森林・林業白書を熟読して統計や図表にもよく目を通すことが重要です。

◎面接対策

・官庁訪問

大学のキャリアセンターを利用して訪問者カードの作成や面接練習を行っていました。私の場合、面接に対してかなりの苦手意識をもっていたので、大学のキャリア面談を毎週予約して、何度も面接練習を行いました。また民間企業の面接を受け、キャリア面談で面接の振り返りと改善点を洗い出し、面接練習を行うというサイクルを繰り返すことで少しずつでしたが、緊張せずに落ち着いて面接に臨むことが出来るようになりました。この民間就活で本番慣れできたおかげで、官庁訪問当日では落ち着いて面接官と話すことができました。実際に官庁訪問を受けてみて、志望度の高さを限られた時間内でいかにアピールできるかが重要だと感じました。

・二次試験(人物試験)

官庁訪問の後にあったので特に対策はしませんでした。質問は面接カードから出されるので、面接カードに書いた内容は話せるように準備しておくことが大切です。後は基本的な面接マナーを遵守していれば問題ありません。官庁訪問や民間面接とも違う雰囲気でしたが、落ち着いて受ければ大丈夫です。

◎内定までの過ごし方、心がけたこと

レンジャーの仕事について深く理解することを心掛けました。そのために、環境省主催のWEB 説明会やセミナーには何度も参加していました。また、大学 3 年の夏休みに参加した実習プログラムで現地レンジャーの話を直接聞く機会があり、それが環境省を目指す大きなきっかけとなりました。

内定までは卒業研究や民間就活との両立が大変でしたが、時期に応じて力の入れ具合を変えメリハリをつけることでなんとか両立出来たと思います。私は自宅では勉強に集中出来なかったため、大学の図書館や研究室で勉強していました。

内定を得るまでは長い道のりです。だからこそ、モチベーションを維持するコツや息抜き、勉強に集中する工夫などを自分なりに試行錯誤しながら確立していくことも長期戦を乗り切る上で試験対策と同様に重要だと思います。

◇ アドバイス、メッセージ

私は民間就活もしていたので 3 月や 4 月は民間就活に追われて十分な勉強ができませんでした。それでも、12 月に過去問を入手してから少しずつ過去問を解いていたことが役に立ったと思います。最後の 2 週間は試験対策に集中して取り組みました。

民間就活も並行していた身として感じたことは、民間の面接経験が官庁訪問に役立つということです。数社だけでも本番の面接経験があると、面接特有の緊張感や雰囲気を掴めるのでおすすめです。

最後にお伝えしたいことは、環境省へ就職することは決してハードルが高いわけではないということです。レンジャーになりたいという強い気持ちを忘れず、入念に準備することが一番大事だと思います。諦めずに最後まで頑張ってください、皆さんを応援しています。

内定者 T の場合

◇ プロフィール

最終学歴	大学卒業
学年	既卒
職歴	小学校教諭(2021年4月～)
併願先	なし
参加した説明会・回数	web説明会3回
試験区分	林学
専攻科目	動物生態学

◇ 志望動機

旅行で行った上高地の景観の美しさに心惹かれたこと、国立公園のパークボランティアとして、登山道の補修整備に携わったことがきっかけです。特に、パークボランティアの活動では地域の団体や大学の専門家、企業と情報を共有しながら補修しました。登山道を補修することは、その植生も同時に保護することにつながり、それを計画したり、認可したりする自然保護官の重要性を強く感じました。また、様々な人の思いを受け止め、連携することで未来に美しい自然をつなげられるということに気付き、私も自然保護官として業務に携わりたいと思い志望しました。

◇ 内定者体験記

◎全般(勉強方法、勉強スタイル、勉強開始時期など)

勉強は仕事をしながらのため、時間が限られました。そのため、1年前から計画的に進めました。基本的に専門試験の勉強に時間をかけて、時間があるときや気分転換がしたいときに基礎能力試験を勉強しました。また、他の志望者に比べて知識や経験が乏しいと予想されたため、ボランティアや自然に関する講習会に出席し、様々なことを吸収しようと努めました。

◎一次試験対策

・基礎能力試験

基礎能力試験では時間配分に気を付けました。数的推理の問題がやや多く、自分自身苦手感じていたため、重点的に勉強をしました。分からない問題は答えを見て解き方を学び、再チャレンジしました。そのほかの問題は読めばできると思い、素早く解くことに力を入れました。膨大な範囲のため、ある程度の点が取ればよいと思っていました。

・専門試験(多肢選択式)

専門試験は初めての内容ばかりでした。そのため、森林・林業実務必携や白書、インターネットの情報を頼りにして勉強を進めました。過去問を解いて、間違えた問題や自信がない問題は解説やそれに関係する内容をノートにまとめました。この勉強が一番時間がかかりましたが、このノートのおかげで別年度の過去問や試験本番の前に読んで、最終確認ができました。何年分か解くと出題の傾向が見えてくると思います。どんな内容が出題されやすいか目星をつけて勉強すると効率よく進められるかもしれません。

・専門試験(記述式)

記述試験は多肢選択式の勉強である程度まかなえると思い、時間はあまりかけませんでした。それでも、白書のコラムを読み、問題を想像し、どのように自分なら答えるか考えました。また、問題に対して簡潔に分かりやすく主張することを意識しました。主張のあとに具体例を挙げて、長くならないように気を付けました。情報収集不足で、どのような解答用紙で問題を解くのか分からなかったため、本番と比べると練習の際は文字数が少なかったです。公務員試験対策の講座などで勉強することをお勧めします。

◎面接対策

・官庁訪問

自分の強みと経験が環境省とどのようにつながるか考え、アピールできるように準備しました。特に、社会人経験があるところが他の志望者にはない強みだと思い、そこを前面に押し出しました。ノートに自分の強み、そのエピソード、それが環境省でどのように発揮されるかということを書き出し、分かりやすく伝わるようにまとめることを心がけました。面接練習は家族に付き合ってもらい、話す言葉が伝わりやすいか一緒に考えてもらいました。緊張はしましたが、一緒に働きたいと思ってもらえるように、明るく、自分らしく話をするを心がけました。

・二次試験(人物試験)

官庁訪問後であったため、余裕をもって話をすることができました。環境省の話だけではなく、国家公務員としてどのように仕事をしていきたいかも話すことができるように準備をしました。

◎内定までの過ごし方、心がけたこと

自分の知識を広げて、深めていくために、仕事以外でも様々な人と交流することを心掛けました。特に、パークボランティアの活動で自然保護官の方や他のボランティアの方々とお話することで業務や自然に対する理解度を上げられるように努めました。

◇ アドバイス、メッセージ

志望動機や自己 PR を固めるために web 説明会や環境省の仕事につながる活動に積極的に参加したことが大きなポイントになりました。今からでも経験は積むことができると思うので、たくさん行動してみるのもいいと思います。また、この人と働いてみたいと思ってもらえるような努力や準備はたくさんした方がいいと思います。まだ、時間があると思うので、じっくり考えてみて下さい。

社会人として 5 年働いてからのチャレンジでした。転職への不安があり、仕事や私生活でも大きな動きがある 1 年だったため、本当に自然保護官でいいのか迷うときもありました。ですが、そのたびに「内定者の声」を読み、自分自身を鼓舞するようにしていました。もし、学生や社会人の方で今、自然保護官を目指すか迷っている人がいましたら、ぜひ、チャレンジしてみてください。大変な一歩だと思いますが、自分の「やりたい」を叶えられる大きな一歩になるチャンスだと思います。応援しています。

内定者 U の場合

◇ プロフィール

最終学歴	大学院修了見込み
学年	修士 2 年
併願先	国家総合職・地方上級(農業)・国立国会図書館・民間
参加した説明会・回数	自然系 Web 説明会・座談会・MOE トークなど 5 回程度
試験区分	農学
専攻科目	畜産

◇ 志望動機

私は、将来の子ども達に日本の自然を残していきたいと考え環境省を志望しました。長野県の山間部で育った私は、幼少期には家族や友人と山や川で遊び、小・中学校時代には自然と関わる生活を送りました。さらに高校では山岳部に所属し、自然を肌で感じながら山々に親しましました。大学では、豊かな自然と歴史を併せ持つ島根県に暮らし、自然と人々が調和しながら築いてきた地域文化に触れることができました。こうした経験を通じて、日本の魅力は自然と人間の関わり合いの中で育まれてきた文化にもあり、これを守り継ぐことが重要であると考えています。自然と共生してきた歴史や文化は全国各地に広がっています。そのため、地域に根差した取り組みを大切にしつつも、日本全体を視野に入れて保全活動や政策を展開できる環境省で働きたいと考え、志望いたしました。

◇ 内定者体験記

◎全般(勉強方法、勉強スタイル、勉強開始時期など)

教養、専門は始めるのが 1 月であり遅めのスタートでした。なので可能であれば早めの必要があるかと思います。人事院の試験(基礎、専門、二次試験)は最低点数が決まっておりそこを落とすと他の科目でよい点を取っても不合格です。私は最低点数でした。筆記試験などは人事院から過去問を取り寄せられます。HP を確認してみると、申し込んでも来るのに1ヶ月程度、年明けは試験直前ということもあり、過去問請求が殺到する可能性があります。そのため届くのが通常より遅くなるかもしれません。早めの請求がいいと思います。意外と安いですよ！また面接でのしゃべり方、アピールの仕方などは入念に取り組む必要があったと反省しています。

◎一次試験対策

・基礎能力試験

一般知能分野である文章理解、判断推理、数的推理が全体の点数の半分以上を占めていたためそこを中心に行いました。判断推理、数的推理は過去問から同じようなものもあり、解法を覚えればすぐ解けるものが多い印象です。他の一般知識は高校の復習と、時事ネタもあり網羅するのが大変でしたが自分の得意分野(生物)だけはしっかり答えられるよう復習しました。全体的に時間が無いためすべて答えようとせずまた1問に時間をかけ過ぎず得意な分野で解いていくとよかったと思います。

・専門試験(多肢選択式)

基礎能力試験より配点が高いため可能な限り点をとれるよう人事院からもらえる過去問を勉強しました。内容は大学の講義で出るものが多いと感じました。そのため試験勉強は日頃の講義をしっかりと受け、復習することを勧めます。解説が過去問には載っていないため先生や友人、後輩、環境省農水省などのHPや省庁が出している白書から学ぶといいと思います。最近ではAIが普及しているためモデルとして使うのもいいと思います。

・専門試験(記述式)

筆記はゼミや友人など日頃の話し合いや小説、新書、論文、資料など読む力から身につけます。自分も過去問を解く前に本や雑誌を読み基礎的な文章構成を学び、全体的にどのような流れで解答するか。また友人と話す練習をし、人に分かりやすく説明する工夫でできると思います。専門用語は使うべきかはわかりませんが相手が分野外の人だと思い解答していました。また社会問題について触れることもあるためニュースや新聞を読み自分なりの考えを簡単に起承転結で持っておくとなお答えやすかったかと思います。

◎面接対策

・官庁訪問

政策よりも「あなたはどんな人？」という人物面が深く聞かれました。なので訪問者カードをある程度覚えておくこと、訪問者カード作成では自分の言いたいことを統一すること、アピールする人柄と組織に所属してどう活躍できるかを固めておくことが必要だと思います。そうすることで面接官に質問されても人物像と良い点を迷わず話すことができます。また質問は訪問者カードを基にされます。面接官の言い方は違えど求められている意味は同じものが多いので「お相手はこういうことを聞きたいんだな」とふんわりした気持ちと考えで話せば緊張せずバッチリだと思います。志望理由は深く聞かれました。他県庁や企業と何が違ってできるのか、農水省でなく環境省の理由など突っ込まれたため対策とどうして環境省なのか何回も考え直しました。

・二次試験(人物試験)

面接カードを基に聞かれます。官庁訪問用に対策をとる事、他面接練習を重ねる事、1つの質問で2,3回深掘されることが多かったです。うまく自分のアピールが伝えられるよう周りの人と対策をとってみましょう。

◎内定までの過ごし方、心がけたこと

結果が分かるまでは就活を進めていました。うまくいっても慢心することが無いように気を付けていましたが、内々定通知が来たときはとても喜びました。

◇ アドバイス、メッセージ

就活は交通費、宿泊費など掛かるのは当たり前で、他練習や勉強に家族、友人、教授、研究室の方々にとってもお世話になりました。そのため無事就活が終えられたのもありがたいことに1人じゃなかったからだと強く思います。日頃から就活含め生活、学業を支えてくださる方々に必ず感謝しましょう。

また内定はゴールじゃないです。周りの目や焦燥感にかられるより今より長く生きてく人生で将来的にどんな風に働きたいか、どんな職種を経験したいかなど気持ちに素直になりながら就活すると自ずと自身のしたいことが分かると思います。無理せずほどほどにやっていきましょう。

内定者 V の場合

◇ プロフィール

最終学歴	大学院修了見込み
学年	修士 2 年
併願先	林野庁
参加した説明会・回数	自然系 Web 説明会 2 回
試験区分	林学
専攻科目	野生動物学

◇ 志望動機

野生動物の生活環や彼らを取り巻く周囲環境の変化に対し、「美しい」という思いがありました。野生動物学を専攻し、それについて理解を深めると、そういった環境を維持していく上で保全というものがいかに重要であるかを知りました。保全の要として活躍のできる環境省を志望したのはそうした理由によるものです。

◇ 内定者体験記

◎全般(勉強方法、勉強スタイル、勉強開始時期など)

勉強の開始のタイミングは試験の 2 ヶ月前ほどだったと思います。文章理解は多少自信があったので、数的処理を中心に勉強しました。

◎一次試験対策

・基礎能力試験

数的処理を中心に何度も「解き方」を頭に入れました。重要なのは参考書の問題の解き方を理解することだと思います。

・専門試験(多肢選択式)

林学は全く勉強してこなかった為、森林白書を読みつつ、わからないところは chat GPT などを用いて勉強しました。

・専門試験(記述式)

選択とやることは変わりません。森林白書を読み込みます。

◎面接対策

・官庁訪問

企業の面接同様、これまで経験して得られたものについてよく聞かれます。得られたものがその省の政策に対して役に立てられるのかを明確に説明できるようにしておいてください。

・二次試験(人物試験)

官庁訪問時の内容から、より公務員としてを意識するような受け答えを行えば良いと思います。

◎内定までの過ごし方、心がけたこと

試験1ヶ月ほど前からは試験に向けて集中していました。それが終わると大学の研究が忙しかったので、そちらに集中していました。

◇ アドバイス、メッセージ

気負わず力を抜いて臨むと良いと思います！

内定者 W の場合

◇ プロフィール

最終学歴	大学卒業
学年	既卒
職歴	警備バイト→調理補助→北海道庁
併願先	なし
参加した説明会・回数	自然系 Web 説明会 2 回
試験区分	林学
専攻科目	昆虫学

◇ 志望動機

元々、自然環境の保全に強い関心があり、地方の公務員として関わってきて、より大規模で専門的な保全業務に携わりたいという気持ちが強くなりました。地域意向を反映させ、地域特性に即した大規模な保全を包括的に行うことができるのは、行政の強みであり、それらを現場レベルの第一線で行うことができる仕事が、環境省自然系だと考えたので、志望しました。

◇ 内定者体験記

◎全般(勉強方法、勉強スタイル、勉強開始時期など)

1 年前からオンデマンドの予備校に申し込み対策を始めましたが、趣味やバイトにうつつを抜かしていたので、勉強しない日も多くありました。本腰を入れて勉強し始めたのは1ヶ月前くらいだったと思います。

◎一次試験対策

・基礎能力試験

配点の多い数的処理をメインに勉強していました。ただ、数的処理ばかりやっても疲れるので、息抜きに文章理解や自然に関する参考書を流し読みしていました。

・専門試験(多肢選択式)

試験全体で一番配点率の高いものなので、1 年前から一番時間をかけて対策しました。白書をひと通り読み、過去問から出題の傾向やクセを分析しました。ほぼ知らない分野で、かつ勉強期間もあまり取れなかったため、出題頻度の少ない内容は勉強しなかったです。

・専門試験(記述式)

多肢選択式の勉強をしていたら、ある程度は書けるようになりました。基本的な文章作成のルールや構成のコツを勉強したくらいで、中身は対策しなかったです。足切りさえ気をつければいいと思います。

◎面接対策

・官庁訪問

訪問者カードの内容をとにかく覚えて、それに付随するエピソードや質問を想定していました。訪問者カードの作成には、かなり時間をかけましたが、面接自体はアドリブで答えればよかったので、対策は特にしなかったです。

・二次試験(人物試験)

面接カードは時間をかけて慎重に作成しましたが、面接自体の対策は特にしていません。

◎内定までの過ごし方、心がけたこと

働きながら内定待ちをしていたので、気にかける余裕もなかったです。落ちても今の仕事を続けるだけなので、気持ち的には楽でした。

◇ アドバイス、メッセージ

対策は早いに越したことはないですが、自分のように直前になって本腰を入れ始めても、案外何とかかなります。気負わずに臨むことが大切だと思うので、諦めずに頑張ってください。

内定者 X の場合

◇ プロフィール

最終学歴	大学院修了見込み
学年	修士 2 年
併願先	地方上級(建築職)
参加した説明会・回数	自然系業務説明会(web)2 回・サマトラ 1 回
試験区分	建築
専攻科目	建築学

◇ 志望動機

幼少期から魚や虫が好きで大学の卒業設計では河川の生態系の再生を目指した提案を行いました。その過程で現代の自然は人が利用する以前に保全し、再生していく必要があることを強く感じ、自然の保護と利用に携わりたいと考えるようになりました。周囲に建築学生が多く、自然環境に対する解像度に違いが生じていたこともあり、人の意識から変えていくことも重要だと感じていました。そして、政策に携わることができる公務員を目指すようになり、環境省を最終的に志望するようになりました。

◇ 内定者体験記

◎全般(勉強方法、勉強スタイル、勉強開始時期など)

試験のある前年の 12 月頃まで建築士の試験でも使えるだろうなと思いながら、公務員建築職の参考書をだらだらと読んでいたと思います。1 月頃から本格的に勉強を開始し、3 月頃から人事院に請求した 5 年分の過去問を基礎能力試験、専門試験ともに解き始めました。

◎一次試験対策

・基礎能力試験

過去問を解き、わからなかったところや時間がかかったところをインターネットで検索し、一つ一つ丁寧に理解していきました。特に対策は行っておらず、専門試験に試験勉強のほとんどの時間を充てました。

・専門試験(多肢選択式)

工学に関する基礎については過去問を 5 年分解き、わからなかった問題を AI (Perplexity) や友人に教えてもらっていました。

建築に関する問題では大学教育出版の「建築職公務員試験専門問題と解答」の計画・環境ほか、構造・材料ほかの 2 つを使って勉強した後に、過去問を 5 年分解きました。過去問の答え合わせの際に、設問ごとに関連する知識を一緒に覚えていくことを意識していました。

・専門試験(記述式)

一級建築士試験の参考書を読んだ後に建築士試験の過去問や練習問題(研究室にあったもの)を 5 回分ほど模写しました。その後、専門試験記述式の過去問 5 年分を 2 周して研究室の先輩に添削してもらい、その助言を元に過去問をもう 1 周ほどして試験日を迎えました。

定規しか使えず、時間が短い試験で慣れない作業が多いので、この記述式試験を早めに 1 度やってみると良いと思います。建築士試験の模写や過去問を解く中で、トイレや階段の配置、導線のプランなどの自分が使えるパターンを増やしていくことを意識していました。ただ、求められている内容は建築士試験ほど高くないと思うので、与えられた条件を満たすことを優先すれば問題ないと思います。

◎面接対策

・官庁訪問

訪問者カードを友人や大学職員の方に見てもらいました。建築を専攻しているため、なぜ環境省なのか、なぜ自然が好きなのかといった部分を特に詳細に話せるようにしていました。

・二次試験(人物試験)

官庁訪問と同じように面接カードを友人や大学職員の方に見てもらっていました。官庁訪問でも同じですが、カードの記入内容を繰り返し読み、落ち着いて話せるようにしておくことが大切だと思います。

◎内定までの過ごし方、心がけたこと

勉強はもちろんしていましたが、あまり根を詰めすぎないようによく外に出て湿地の整備や採集、イベントなどに参加していました。人脈が広がり、官庁訪問や人物試験の話のネタになったのでよかったと思います。

◇ アドバイス、メッセージ

様々な体験をすることがとても大切だと感じました。私は研究室のプロジェクトや地域のイベントに積極的に参加したり、自然環境の整備をされている方の見学をさせてもらったりといった体験をさせてもらったことで、レンジャーとしてやりたいことに具体性が持たせられたように思います。勉強をしないと不安かもしれませんが、経験を増やすことも重要なので是非いろいろなことに挑戦してみてください。

内定者 Y の場合

◇ プロフィール

最終学歴	大学卒業見込み
学年	学部 4 年
併願先	国家総合職・地方上級(林学)・国家一般職林野庁
参加した説明会・回数	霞ヶ関 OPEN ゼミ2回・ウェブ説明会10回以上
試験区分	林学
専攻科目	環境行政

◇ 志望動機

もともと環境問題に関心があり、大学で環境行政や里山について学ぶ中で、里山保全活動のボランティアにも取り組みました。その経験から、豊かな自然を守る為には様々な立場の人の理解と協力が必要だと感じました。そこで、自然と人、人と人を繋ぐ仕事がしたいと思うようになり、自然保護官を志すようになりました。特に自然保護官は、長期的に自然と人が共生できる社会の実現に関わることができ、現場と制度面の両方に関われることに魅力を感じています。

◇ 内定者体験記

◎全般(勉強方法、勉強スタイル、勉強開始時期など)

高校 2 年生の時に、自然保護官という職業を知ってから、情報集めに取り組みました。大学 1 年生の時から説明会に参加し、レンジャー経験者の方にお話を伺い、3 年生ではインターン、パークボランティアに参加する中で、自分の理想とする働き方だと確信しました。

大学受験は指定校推薦だった為、学力に不安がありましたが、専門分野の理解を深める為に 2 年生の秋から林学区分の解説づくりを始め 3 年の春からは教養科目にも取り組みました。人事院の過去問や森林・林業白書(ネットからダウンロード)と森林・林業実務必携を活用しました。特に必携は改定が多い時期だったので試験前年度に購入しました。

総合職と一般職の両方を受験することをおすすめします。私自身、模試を受ける機会がなかったので「総合職試験は一般職試験の為の模試だ」と考えて挑戦しました。結果的に、二次面接や官庁訪問の経験が一般職試験で役立ちました。総合職試験の対策は、直前の 2 週間で過去問を解く程度で十分だと思います。教養、専門のどちらも一般職試験と大きな違いはないと思います。

◎一次試験対策

・基礎能力試験

教材は「新スーパー過去問ゼミ7」の文章理解、判断推理、数的推理、資料解釈を中心に使っていました。知識系の参考書はほとんど使わず、生物や地理分野で興味のある分野だけを軽く確認しました。全30問のうち、文章理解と資料解釈だけは8割以上、数的推理と判断推理は最低5割を目標にしました。時事と知識問題は「知っている問題がでたらラッキー」くらいの気持ちで、ニュースや「速攻の時事」を中心に情報収集しました。全体として7割得点できれば十分と考えていました。

総合職試験の1か月前からは国家一般職試験(大卒)過去問500を使って時間内に解く練習を繰り返し替えしました。特にタイムマネジメントが重要だと思います。得意な分野は正確に早く解くこと、苦手分野は、「絶対に解けない問題」は見切りをつけることを意識しました。

・専門試験(多肢選択式)

10年分の過去問に加え、森林・林業実務必携と森林・林業白書を使用しました。過去問の解説づくりでは、その試験年度に参考としている年数の白書の文章を参考にしました。同時に最新版も確認することも意識していました。林業政策と林業経営、林産一般、造林学は幅広く理解することを意識し、林業工学と砂防工学は理解できる範囲に絞りました。大学の専攻が文系寄りだったため、何度も問題を解いて慣れることで克服しました。

・専門試験(記述式)

誰かに添削してもらうことはなく、AIで日本語表現を確認する程度でした。記述問題をノートに貼り、その間に答える際の参考データや法律をまとめておくと、直前に復習しやすいです。

構成は、段落ごとにテーマを明確にし、最初に結論を示してから具体的に書くことを意識しました。また、森林自然環境分野のニュースを白書の内容と関連づけ、「自分の意見をまとめておく」ことが本番でも役立ちました。

◎面接対策

・官庁訪問

2月ごろから昨年度の訪問者カードを参考に志望動機をメインで考えはじめました。主に大学のキャリアセンターに4月から通い始め併願先の対策と同時に訪問者カードの添削もしてもらいました。また、複数の友人にも、面接練習をしてもらいました。訪問者カード作成時は「なぜ公務員を志望するのか」「なぜ環境省の自然系で働きたいのか」を繰り返し問う事を意識しました。思いが溢れすぎて、とても読みづらい訪問者カードになっていたと反省してます。相手が短時間でも読みやすい訪問者カードにすることは大事だと思います。伝え方で難しかった3つのポイントは①自分の経験に基づいた考えを伝える事、②1分以内に話すこと、③結論ファ

ーストで伝えられる工夫を重ねることでした。

あたり前のことではありますが、意識して練習すると緊張しても無意識に上手く伝えられるようになるはずです。

・二次試験(人物試験)

人事院面接も官庁訪問対策と同様に練習しました。

複数の省庁を官庁訪問していたのですが、面接カードの志望動機に第一希望の省庁の志望動機を書いていたので特に深堀はされませんでした。迷いなく答えられれば問題ないと思います。

◎内定までの過ごし方、心がけたこと

とにかく「自分の経験になること」には積極的に取り組みました。

里山の保全活動、イベントづくり、フォーラム参加など、座学だけでなく現場での出会いや体験が、自分の考えを深める大きな財産になりました。

試験まで時間のある時期は、経験を通じて考えを磨くことを意識すると、面接で“自分だけの言葉”が自然と出てきます。

直前期は体調管理を最優先にし、就寝時間・勉強時間・息抜き(自然散策やボランティア)をバランスよく取るようにしました。

不思議と、リフレッシュの時間にこそ新しい発想が浮かぶこともありました。

☆ アドバイス、メッセージ

内定までの道のりは長く、周囲の友人が先に決まって不安になることもあります。でも、「腹をくくってやり切る」と決めたら必ず道は開けます。

私は公務員試験一本に絞り、不安な時も「行動すれば必ず前に進む」と信じてスモールステップを積み重ねました。同じ目標を持つ友人と励まし合い、家族・教授にも公言してプレッシャーを力に変えました。

最後になりましたが、「不安な分だけ真剣に向き合っている証拠」です。焦らず、自分らしい形で最後まで走り抜けてください。微力ながら、心から応援しています！

内定者 Z の場合

◇ プロフィール

最終学歴	大学卒業
学年	既卒
職歴	製紙会社(3年間)
併願先	なし
参加した説明会・回数	自然系 WEB 説明会 2 回
試験区分	林学
専攻科目	人間環境学

◇ 志望動機

風力発電施設における企業による開発と地域住民との間にある価値観のずれを目の当たりにした経験から志望しました。企業側は持続的な取組と誇りを持っている一方、地域からは景観破壊などの不満があり、双方の思いがすれ違っている現状に強い違和感を覚えました。この経験を通じて、人と自然、地域社会をつなぐ役割を果たしたいと考えレンジャーを志望しました。

◇ 内定者体験記

◎全般(勉強方法、勉強スタイル、勉強開始時期など)

社会人 2 年目の 3 月ごろ、本格的に勉強を開始しました。平日は通勤時間を用いて勉強をして休みの日には図書館など集中できる環境で勉強をしていました。また受験スケジュールが長いので、適度にリフレッシュを入れつつモチベーションを維持できるようにしていました。

◎一次試験対策

・基礎能力試験

基礎能力試験の過去問を 5 年分程を解きました。文章理解等は過去問のみで傾向がつかめますが、数的推理、判断推理は過去問だけでは解き方がわからなかったため、畑中敦子シリーズを用いて勉強しました。

また過去問を解く時にはタイマー使用して、当日のペース配分を考えることを意識していました。

時事問題が出題されますが出題範囲が広いため、テレビやネットニュースを日々追っかける事で対策しました。

・専門試験(多肢選択式)

過去問、森林林業白書を中心に対策を行いました。森林林業白書はそこまで分厚い参考書ではないため、3周程度しました。並行しながら過去問を解いて、わからなかった問題の、周辺チャプターを重点的に復習しました。

・専門試験(記述式)

対策は特にしませんでした。森林林業白書に書かれている内容を自分なりに説明できるように意識はしていました。試験当日はかなり時間に余裕があると思うので、基礎がしっかりしていれば問題ないかと思います。

◎面接対策

・官庁訪問

訪問者カードの内容を繰り返し読み返し、想定質問を可能な限り作ってそれに対する解答ができるよう準備していました。細かい箇所でも訪問者カードに書かれている事は自分の言葉で説明ができるように徹底しました。また友人などに模擬面接をしてもらい、実際に声に出して受け答えをしておく事は大切かと思います。

当日は自分がどういう人間かを理解してもらうため、できるだけ自然体であることを意識しました。またレンジャーの最近のトピックス、それに対する自分の考え等を話す事ができると良いと思います。

・二次試験(人物試験)

官庁訪問と同様に、面接カードに書いてあることを深掘りされた時に、自分の言葉で説明できるようにしておきました。また希望省庁はどこなのか、なぜ志望するか等の頻出質問はしっかりと答えられるようにしておきました。

◎内定までの過ごし方、心がけたこと

オンラインでの職務質問、座談会などには積極的に参加をして、レンジャーへの理解を深めておくとう良いと思います。また試験勉強開始から合格までは長い道のりになると思いますので、リフレッシュも兼ね、たまに国立公園に出掛け、レンジャーになったら関わるであろう仕事を想像して、モチベーション維持をしていました。

◇ アドバイス、メッセージ

上記記載の通り、公務員試験はスケジュールが長期であることから、モチベーションを維持することがキツくなる事があると思います。そのため一旦羽を伸ばして自分の好きな事をする時間があっても良いと思います。私は社会人経験3年目での受験でした。社会人での経験、大

学での経験いずれも自分がやってきた事は必ずどこかで生きてきます。何を思って、どういう考えで自分が行動してきたのかを、ちゃんと面接の場で話せるようにしていれば全く問題ないと思いますので頑張ってください！

巻末資料

令和 8 年度入省予定の私たちが公務員試験の勉強の際に使用した参考書・資料をご紹介します。ぜひ参考にしてください。

太字:使用人数が多いもの

☆ :勉強する際のワンポイントや、内定者が実践した勉強方法など

〈基礎能力試験〉

- ・**基礎能力試験 過去問(人事院)**
- ・**新スーパー過去問ゼミシリーズ(実務教育出版)**
- ・**公務員試験速攻の時事(実務教育出版)**
- ・**国家一般職[大卒]教養試験 過去問 500(実務教育出版)**
- ・大学生協 公務員講座のテキスト
- ・通信講座の教材

☆過去問を中心に勉強しつつ、苦手分野は解説付きの参考書で勉強するのがおすすめ！

〈林学〉

- ・**林学試験 過去問(人事院)**
- ・**森林・林業白書(林野庁 HP、全国林業改良普及協会)**
- ・**森林・林業実務必携(朝倉書店)**
- ・**林野庁 HP(<https://www.rinya.maff.go.jp/>)**
- ・**環境省 HP(<https://www.env.go.jp/>)**
- ・**地方上級の林学試験の過去問**

☆過去問を中心に分からない点を森林・林業白書、森林・林業実務必携、各 HP で確認しながら知識の定着を図る勉強法がおすすめ！

〈農業農村工学〉

- ・**農業農村工学試験 過去問(人事院)**
- ・大学の講義ノート
- ・大学のテキスト
- ・大学の専門科目試験の過去問

☆大学の講義内容を復習するのがおすすめ。計算問題は出題パターンが限られているため得点源！

〈農学〉

- ・農学試験 過去問(人事院)
- ・農学基礎セミナーシリーズ(農山漁村文化協会)
- ・公務員試験技術系新スーパー過去問ゼミ 農学・農業(実務教育出版)
- ・農学基礎シリーズ(農山漁村文化協会)

☆出題範囲が広いため大学の講義をしっかり受けた上で過去問を中心に勉強しつつ、必ず得点出来る分野を作ると good !

〈建築〉

- ・建築試験 過去問(人事院)
- ・建築職公務員試験 専門問題と解答 構造・材料ほか編(大学教育出版)
- ・建築職公務員試験 専門問題と解答 計画・環境ほか編(大学教育出版)
- ・建築士製図試験の過去問や練習問題

☆製図試験は定規のみで描き上げる練習が必要！

〈官庁訪問〉

- ・内定者の声(環境省 HP)
- ・環境省 HP
- ・環境・循環型・生物多様性白書(環境省 HP、日経印刷)
- ・環境省のインターンで頂いた資料やパンフレット

☆訪問者カードの添削と面接練習を行い、想定質問に対する答えを事前に考えておく◎
本番はリラックスして自然体で！

〈人事院面接〉

- ・内定者の声(環境省 HP)
- ・現職人事が書いた「自己 PR・志望動機・提出書類」の本(実務教育出版)
- ・現職人事が書いた「面接試験・官庁訪問」の本(実務教育出版)
- ・社会人・経験者の合格論文&面接術(実務教育出版)
- ・公務員試験論文・面接で問われる行政課題・政策論のポイント(実務教育出版)

☆官庁訪問と同じく面接カードに書いた内容について話せるように準備しておく！

おわりに

この度は令和8年度『内定者の声』を最後までご覧いただき、ありがとうございます。

本冊子をご覧いただいた皆さまの中には、レンジャー第一志望の方、環境省以外の公務員や民間企業への就職を検討されている方、大学院等に進学するか迷われている方、社会人で転職を考えている方など、さまざまな境遇の方がいらっしゃると思います。この『内定者の声』が皆さまの疑問や不安を解消し、進路選択や就職活動の一助となれば幸いです。

今年度の内定者も個性豊かなメンバーが集まりました。内定者のバックグラウンドは人それぞれですが、皆に共通することは自然への熱い思いを持っていることです。専攻や経歴にかかわらず、レンジャーに興味をお持ちの方、環境省でお待ちしています。

最後になりますが、本冊子をご覧いただいた皆さまにエールを送りたいと思います。進路選択や就職活動においては、悩みや不安が多くあると思いますが、この機会にご自身が今までやって来たことを振り返り、これからどうなりたいか、何をしていきたいかを考えてみてください。

レンジャーを目指す皆さまと共に働ける日を、内定者一同、心待ちにしております。

令和8年度環境省入省予定
一般職自然系内定者一同

※環境省について

環境省は自然系・理工系・事務系の3つの職種があり、国家公務員試験の試験区分により、それぞれ総合職と一般職を採用しています(本省採用の場合)。この冊子は令和8年度環境省一般職自然系の内定者が作成しています。環境省における採用に関する情報は以下HPをご覧ください。

○環境省 HP

<https://www.env.go.jp>

○環境省 採用・キャリア形成支援情報 HP

<https://www.env.go.jp/guide/saiyo/index.html>